

進度表（看護学科）

分野 \ 学年	1 年次		2 年次		3 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野						
専門基礎分野						
専門分野						

授業科目	情報科学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	浅野 昌充	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	情報の収集方法と情報処理方法：演習“Word 図表の貼り付け”、表の作成と表計算 I、平均と標準偏差の理解グラフの削正、t-検定 検定の考え方、 χ^2 検定小テスト、 χ^2 検定(エクセル計算)				
到達目標	保健医療における情報の意義を理解し、ICT を活用するための方法、情報の守り方として情報の倫理について学ぶ。看護活動において情報を効果的に活用するための方法について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	情報とは、情報の特性と意義、情報化社会	講義
2	ICT 活用した情報システム	
3	ICT を活用した保健医療における情報システム	
4	ICT を活用した看護における情報システム	
5	情報倫理	
6	コンピューターリテラシーとセキュリティー	
7	情報発信	
8	情報の収集方法と情報処理方法① 演習 “W o r d 図表の貼り付け”	
9	情報の収集方法と情報処理方法② 演習 表の作成と表計算 I	
10	情報の収集方法と情報処理方法③ 演習 平均と標準偏差の理解グラフの削正	
11	情報の収集方法と情報処理方法④ t-検定 検定の考え方	
12	情報の収集方法と情報処理方法⑤ 演習 χ^2 検定 小テスト	
13	情報の収集方法と情報処理方法⑥ 演習 χ^2 検定 (エクセル計算)	
14	情報の発信 (P o w e r P o i n t) の準備	
15	プレゼンテーションリストを利用した発表、まとめ	

テキスト 参考書等	Microsoft Word2013& Microsoft Exel2013 &Microsoft PowerPoint2013 FOM出版
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 レポート評価 実技試験（プレゼンテーション） 出席認定
------------------------------	----------------------------------

授業科目	日本語表現 I			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	川上 浩	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	医療者としての心構え、人間を見る目を耕すについて				
到達目標	・さまざまな表現方法を理解し、自分の考えや心情を表現できる。 ・“医療者に求められる安心と納得の医療”と「人間を見る眼を養うこと」の二つを柱にして、関連する様々な文章を読み、医療者としての姿勢、考え方、人間性、感性を学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	1 開講にあたって	講義
2	2 医療者という職業①医療現場からの声	
3	2 医療者という職業②厳しく尊い職業であること	
4	2 医療者という職業③事故防止	
5	2 医療者という職業④コミュニケーション・スキル	
6	3 患者と医療職者①厳しさと優しさについて考える	
7	3 患者と医療職者②プロの看護師を目指す	
8	4 人間を見る目を耕す①生命の連鎖	
9	4 人間を見る目を耕す②家族・絆・読書	
10	4 人間を見る目を耕す③人間は物語を生きている	
11	4 人間を見る目を耕す④多様な視点から考える	
12	4 人間を見る目を耕す⑤知的好奇心	
13	5 情緒力①藤原正彦の講演要旨	
14	5 情緒力②グループ発表	
15	6 まとめ	

テキスト 参考書等	・資料のプリント ・必要に応じて適宜紹介する。
--------------	----------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況 筆記試験 課題レポート
------------------------------	------------------

授業科目	日本語表現Ⅱ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	川上 浩	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	自分の考えを的確にわかりやすく、論理的に相手に伝える技術について				
到達目標	・言葉と言葉の関係と捉えるための方法を確認しながら、自分の感じ、考えたことを、的確にわかりやすく、論理的に相手に伝える技術を学び、修得することができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	「日本語表現」の四つのポイント①各ポイントの説明	講義
2	「日本語表現」の四つのポイント②今年こそ目標達成「転記の勧め」	
3	分かりやすい表記のルール①表記法,原稿用紙の使い方ルール,句点ルール	
4	分かりやすい表記のルール②作文や論文を書く際の留意事項	
5	書くための材料収集、取捨選択し、それを順序立てて書く。①材料収集	
6	書くための材料収集、取捨選択し、それを順序立てて書く。②取捨選択	
7	書くための材料収集、取捨選択し、それを順序立てて書く。③順序立て	
8	書くための材料収集、取捨選択し、それを順序立てて書く。④構想表	
9	文章には必ず一つの主題を書き込む①主題とは	
10	文章には必ず一つの主題を書き込む②文章演習Ⅰ（構想表）	
11	よくわかる文章にする①文は短く②文末表現③概観から細部へ	
12	よくわかる文章にする④5W1H⑤読点⑥具体と抽象	
13	よくわかる文章にする⑦接続詞⑧修飾・被修飾	
14	よくわかる文章にする⑨比喩⑩推敲	
15	まとめ演習 文章演習Ⅱ（構想表）	

テキスト 参考書等	資料配布
--------------	------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況 課題レポート 筆記試験
------------------------------	------------------

授業科目	教育学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	佐保 忠智	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	教育について学び、看護の機能の中で教育的働きかけ				
到達目標	・教育の本質を理解し、人間形成の基礎を養うとともに自己啓発していく力を身につけ、さらに看護の機能の中で教育的働きかけができる能力を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	教育学の概要 看護と教育学の関連性	講義
2	専門職の共通要素 教育の目的の社会的変化など 教育的ものの考え方	
3	地域包括的教育と医療との関連性 教育者の教育観	
4	近代以前の教育の在り方と近代以降の教育の在り方	
5	グループ討議「死刑制度、医療・教育との関連性」	
6	教育的心 教育的思考 教育的技法の看護・医療への応用	
7	グループ討議「安楽死制度、医療・教育との関連性」	
8	子どもの心を育てる魔法の言葉の背景の確認 気づき	
9	共同体社会の教育目的 通過儀礼と共同体社会の人間形成システム	
10	教育的支援と医学的支援 人生の通過儀礼と発達段階への配慮	
11	成長と発達のまとめ 人間とは	
12	人間固有の営みとしての教育 人権教育を行う意義	
13	基本的人権の構成 人権尊重上大切にしたい3つの心	
14	基本的人権の構成 人権感覚を構成する4つの心	
15	まとめ 期末試験	

テキスト 参考書等	資料配付
--------------	------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 レポート評価 出席認定
------------------------------	------------------

授業科目	英語 I - 1			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	柳瀬美津子	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	アニメで学ぶ看護英語のテキストを用いて、英語に対する親近感を持ち、基本的な英語を学ぶ				
到達目標	英語学習への意欲を高め、英語に対する親近感を養うことを目標にする。 ＊比較的やさしい英語で書かれた英文が読めるようになる。 ＊簡単な英会話ができるようになる。 ＊簡単な英語の会話が聞き取れるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	英語で自己紹介（友達同士）	講義
2	c a m p u s l i f e ① 英字新聞	
3	c a m p u s l i f e ② l e t t e r	
4	c a m p u s l i f e ③ 英字新聞	
5	w e e k e n d s ①	
6	w e e k e n d s ②	
7	R e v i e w	
8	J a p a n i s e c u l t u r e ①英字新聞	
9	J a p a n i s e c u l t u r e ②	
10	H e a l t h y l i v i n g	
11	F a s h i o n ①	
12	F a s h i o n ② まとめ	
13	L i f e s t y e ①	
14	L i f e s t y e ②	
15	期末試験	

テキスト 参考書等	アニメで学ぶ看護英語
--------------	------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 プレゼンテーション 出席認定（授業に取り組む姿勢）
------------------------------	--------------------------------

授業科目	英語 I - 2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	柳瀬美津子	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	アニメで学ぶ看護英語のテキストを用いて、比較的優しい英語が読めて、簡単な英会話				
到達目標	英語学習への意欲を高め、英語に対する親近感を養うことを目標にする。 * 比較的やさしい英語で書かれた英文が読めるようになる。 * 簡単な英会話ができるようになる。 * 簡単な英語の会話が聞き取れるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	L i f e s t y l e について英語で話す	講義
2	C e l e b r a t i o n s お祝いのことばを話す	
3	T r a v e l	
4	F o o d ①	
5	F o o d ②	
6	e n v i r o n m e n t	
7	b u s i n e s s ①	
8	b u s i n e s s ②	
9	I n t e r n e t & S N S	
10	s p o r t s について	
11	I n t e r n e t & s o c i a l m e d i a	
12	s p o r t s について語る	
13	バリアフリー社会	
14	M o d e r n f a m i l y	
15	期末試験 フィードバック	

テキスト 参考書等	アニメで学ぶ看護英語
--------------	------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 プレゼンテーション 出席認定（授業に取り組む姿勢）
------------------------------	--------------------------------

授業科目	英語Ⅱ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	隈元正行	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	医療、看護に関する専門用語				
到達目標	・医療、看護に関する専門語を学習する。 ・医療に関する基本的な英会話ができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	顔、髪、口	講義
2	鼻、耳、口、舌 小テスト①	
3	身体各部と痛み 小テスト②	
4	問診 小テスト③	
5	頭痛、尿生殖器、骨、乳房 小テスト④	
6	患者への指示と診察 小テスト⑤	
7	まとめ 小テスト⑥	
8	面接と対話 中間テスト	
9	ナースとの会話 小テスト⑦	
10	医師との面接① 小テスト⑧	
11	医師との面接② 小テスト⑨	
12	医学英語の分解 小テスト⑩	
13	語源で学ぶ医療英語① 小テスト⑪	
14	語源で学ぶ医療英語② 小テスト⑫	
15	終講試験	

テキスト 参考書等	初めて学ぶ医学英語 メディカル・サイエンス・インターナショナル
--------------	---------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	小テスト40％ 中間テスト30％ 終講試験30％ 出席認定
------------------------------	-------------------------------

授業科目	人間科学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	野村宗嗣	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	人間を理解する根拠となる理論				
到達目標	・人間を理解する根拠となる理論を学ぶ。 ・自己の形成の仕組みや自己と他者、社会との関係を考えることで、人間というものの存在を深く理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	ものごとの背景を捉える意義	講義
2	人の行動を科学する	
3	自分理解を深める	
4	人間関係 集団活動	
5	不安と対応	
6	病気や障害のある人の理解と支援	
7	人は言語で思考する	
8	ことばと動作、イメージ	
9	聞く力を育てる	
10	ストレス キャリア 自己評価 他者評価	
11	モチベーション 合理的配慮	
12	病気や障害のある子どもの親と兄妹の心理	
13	体を動かすための「企画→実行」の過程を考える	
14	虐待とその心理	
15	老いがもたらす心理的变化	

テキスト 参考書等	資料
--------------	----

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	終講試験 出席認定
------------------------------	-----------

授業科目	人間関係論			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	安東末廣	取得資格	なし		
		実務経験	有・無	経験年数	0
授業内容	人間関係について				
到達目標	1. 人間関係の基礎となる要因を理解する。 2. 人間関係と発達段階との関係を理解する。 3. 人間関係の歪みや障害とその治療・改善について理解する。 4. 人間関係の改善と向上の技法について、演習を通して理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	人間関係の基礎 1) 人間関係とは何か 2) 人間関係の要因	講義
2	人間関係の基礎 2) 人間関係の要因 3) 人間関係の場面	
3	人間関係の発達 アイデンティティ 医療における人間関係 患者心理	
4	医療における人間関係 人間関係の深まりのプロセス	
5	医療における人間関係 患者とのコミュニケーションの要点	
6	人間関係の歪みや障害 発達過程での危機	
7	人間関係の歪みや障害 日常生活の中の心の問題	
8	人間関係の歪みや障害 心の危機	
9	人間関係の改善と治療 人間関係のトレーニング①	
10	人間関係の改善と治療 人間関係のトレーニング②	
11	人間関係の改善と治療 人間関係のトレーニング③	
12	人間関係の改善と治療 人間関係の治療 認知行動療法	
13	人間関係の改善と治療 認知行動療法	
14	人間関係の改善と治療 カウンセリング	
15	人間関係の改善と治療 カウンセリング	

テキスト 参考書等	教科書:『生き方支援の心理学』安東末廣編著 北大路書房
--------------	-----------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	期末試験
------------------------------	------

授業科目	カウンセリング論			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	安東末廣	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	カウンセリングの基本				
到達目標	カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作る。実践的にロールプレイを体験しスキルを身につけていく。さらに、カウンセリングの活用が求められる看護の現場においてもコミュニケーションスキルが生かせるようになる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	カウンセリングとは何か カウンセラーとクライアントの意味、カウンセラーとクライアントの協働作業、レポートの形成に必要な受容と共感	講義
2	カウンセリングの理論Ⅰ・来談者中心カウンセリング 自己実現をもたらすための傾聴技法、自己概念と経験の一致	
3	カウンセリングの理論Ⅱ・認知行動療法 学習理論を基礎とする認知と行動の変容技法、	
4	カウンセリングの理論Ⅲ・精神分析的カウンセリング・箱庭療法・プレイセラピー。心や行動の根底にある無意識層の意識化、子どもの心を開くための遊び方	
5	カウンセリング場面の特質 面接契約、受容性、専門的理解、主体性	
6	カウンセリングのプロセス 導入期（レポート形成の段階）、展開期（問題への主体的取り組みの段階）、終結期（問題の解消・軽減の段階）	
7	カウンセリングのプロセスと技法 プロセスと来談者中心カウンセリングにおける傾聴技法との関係	
8	カウンセリングにおけるコミュニケーションスキル（傾聴スキル）の理解 ①純な受容（あいづちとも）、②内容のくり返し、③感情の反射、④明確化、⑤要約、⑥質問、その他の傾聴スキル（フィードバック、支持、助言、自己開示、解釈）	
9	コミュニケーションスキルを用いたロールプレイⅠ ①、②、③を用いたロールプレイ	
10	コミュニケーションスキルを用いたロールプレイⅡ ④、⑤、⑥を用いたロールプレイ	
11	非言語的コミュニケーションの理解 アイコンタクト、身振り・姿勢、パーソナル・スペース	
12	コミュニケーションスキルの深化	

	クライアントのさまざまな発言に対するカウンセラーの応答の理解、紙上での練習法	
13	カウンセリングが必要な領域と問題 小児科：不登校、発達障害など、内科・心療内科：自律神経失調症(腹痛、下痢、頻尿、など)、精神科：不安障害、うつ病など、ターミナルケア：命についての葛藤)	
14	カウンセリングの実際例とコミュニケーションスキルとの関係の理解	
15	カウンセリングの実際例とコミュニケーションスキルとの関係の理解 とまとめ	

テキスト 参考書等	特定の教科書の使用なし、資料の適宜配布、参考書：『生き方支援の心理学』
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験(100%)、出席(参考)

授業科目	社会学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	佐保忠智	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	社会という学問について				
到達目標	1. 家族関係、地域社会、職場関係について学び、社会の中で生き、生活している人間理解を深め、住みやすい社会の在り方を探る。 2. 看護実践に必要な社会との関わりを、家族関係、地域関係、職場関係に関する学習を通して理解するとともに今日の社会が直面する課題を理解する。 3. 異文化理解や様々な人権に関する学習を通して違いを認め合う心や共生の精神を培う。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	社会という学問 社会学を学習する意義	講義
2	現代の社会学 社会的行為など	
3	社会の学問領域 人間力 生きる力など	
4	現代社会と社会学 社会科学とは 日本の医療と社会学の概要など	
5	社会学の学問的領域と特色 プライマリ・ヘルス・ケアと社会学の関連性など	
6	感染症と社会の変革 公衆衛生の概要など	
7	感染症の流行と社会の変革の関連性 我が国の社会保障制度など 現代社会の特色の予告	
8	公衆衛生と社会医学－医療と社会学の接点 現代社会とは	
9	現代社会と特質 大衆社会の意義・成立など	
10	大衆社会の定義 大衆社会の担い手－新中間層 大衆社会の特質	
11	管理社会の特徴 官僚制の特徴	
12	官僚制のまとめ 社会集団の種類と特徴・形成の過程 我が国の人口問題	
13	我が国の人口問題－人口構成、高齢化率、少子高齢社会の原因と課題、対策	
14	倍化年数の各国比較と日本の特徴 家族の機能・形態情報化 国際社会	
15	現代社会の特質・課題 筆記試験	

テキスト 参考書等	(教科書) 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院 (参考書) 本当にわかる社会学 現代位相研究所編 日本実業出版社 メンタルヘルス&ケア ハンドブック 佐保忠智著 同文書院
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 提出物 出席状況、授業態度などを基に総合的に判断する。
------------------------------	----------------------------------

授業科目	法学			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	渡邊 譽	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	日本国憲法 基本的人権の尊重 他				
到達目標	・人権の重要性とその意味、根拠を学ぶ。 ・社会人の規範としての法律・社会生活を営むうえでの基本的な法律を学び社会人としての法的責任を自覚する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	法とは 法の存在形式 日本国憲法の制定経過	講義
2	明治憲法の特色 日本国憲法の基本原理、象徴天皇	
3	天皇の権能と継承 戦争放棄 1 項・2 項の解釈	
4	自衛権 憲法 9 条と P K O 活動 基本的人権と公共の福祉	
5	基本権保障の人的範囲 包括的人権	
6	法の下での平等 思想良心の自由 信教の自由	
7	表現の自由 学問の自由 国会	
8	衆議院解散 国会議員の特権 国政調査権 内閣	
9		

テキスト 参考書等	教科書：法学
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	期末試験 レポート評価 出席認定

授業科目	保健体育			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	西村盛正	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	各種スポーツについて				
到達目標	・運動が身体に及ぼす影響を理解しながら、活動の意義・進め方とその実際を学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	健康とスポーツ	講義
2	運動と栄養	
3	ストレッチ（実技）	演習
4	運動と社会活動	講義
5	バレーボール サーブ試合（実技）	演習
6	バレーボール サーブ試合（実技）	
7	バレーボール パスマわし（実技）	
8	バレーボール（実技テスト） 試合	
9	スポーツの生理①	講義
10	スポーツの生理②	
11	運動と精神活動	
12	バトミントン② チーム総順位（実技）	演習
13	バトミントン③チーム総順位（実技）	
14	バトミントン（実技テスト）	
15	バレーボール（実技）	

テキスト
参考書等

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技 レポート評価 出席認定
------------------------------	----------------

授業科目	ライフスポーツ			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	西村盛正	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	様々なライフスポーツ				
到達目標	各スポーツを楽しむために必要な基礎的な技術を習得、ゲーム方法などを理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	オリエンテーション	講義
2	身体慣らし（ストレッチなど）（実技）①	演習
3	身体慣らし（ストレッチなど）（実技）②	
4	身体慣らし（ストレッチなど）（実技）③	
5	バドミントンと卓球（自由選択）（実技）	
6	バスケットボール（自由選択）（実技）	
7	フリスビー アルチメット（実技）①	
8	フリスビー アルチメット（実技）②	
9		

テキスト 参考書等	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	レポート評価 実技記録 出席認定

授業科目	構造と機能Ⅰ-1			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	森山佐知子	取得資格	医師		
		実務経験	☒ 有・無	経験年数	13
授業内容	人体の構造、組織、皮膚と膜、人体内部の膜について学ぶ。				
到達目標	人体の構造と機能の関連を主に人体の構造の面から系統的に理解できる。 加えて、病気との関係が理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方 法
1	人体の構造と機能を学ぶために	講義
2	人体の構造	
3	組織学	
4	組織学	
5	皮膚と膜	
6	皮膚と膜	
7	人体内部の膜	
8	人体内部の膜	
テキスト 参考書等	専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① （医学書院）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	構造と機能Ⅰ-2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	森山佐知子	取得資格	医師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	系統的に人体の構造を学ぶ。				
到達目標	人体の構造と機能の関連を主に人体の構造の面から系統的に理解できる。 加えて、病気との関係が理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方 法
1	骨格系	講義
2	筋系	
3	循環器系	
4	循環器系	
5	呼吸器系	
6	消化器系	
7	消化器系	
8	泌尿器系	
9	生殖器系	
10	内分泌系	
11	内分泌系	
12	アレルギー、膠原病	
13	神経系	
14	神経系	
15	感覚器系	
テキスト 参考書等	専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① （医学書院）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	構造と機能Ⅱ-1			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	中島融一	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	日常生活を営むための人体と構造と機能について				
到達目標	人体の構造と機能の関連を主に人体の構造の面から系統的に理解できる。 加えて、病気との関係が理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	体液・血液とは何か	講義
2	血液型・血液凝固・線溶	
3	体液循環	
4	生体防御機構	
5	酸塩基平衡・電解質組成	
6	酸塩基平衡・電解質組成	
7	フィードバック	
8	フィードバック	
9		
10		

テキスト 参考書等	専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、定期試験

授業科目	構造と機能Ⅱ-2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	中島融一	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	日常生活を営むための人体と構造と機能について				
到達目標	人体機能とその調節機能について理解し、異常が生じた場合の生体反応についても理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	体・肺循環	講義
2	心周期・心音・心電図	
3	不整脈・血圧	
4	呼吸の過程・運動・呼吸調整	
5	肺気量・病的呼吸	
6	消化管運動・胃液分泌・膵臓分泌・胆汁・排便反射	
7	消化管運動・胃液分泌・膵臓分泌・胆汁・排便反射	
8	骨格筋、神経系、感覚器	
9	栄養と代謝・体温調整	
10	腎総論、腎機能とその検査	
11	腎総論、腎機能とその検査	
12	内分泌、生殖	
13	内分泌、生殖	
14	骨格筋、神経系、感覚器	
15	骨格筋、神経系、感覚器	

テキスト 参考書等	専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）
--------------	------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、定期試験
------------------------------	-----------

授業科目	生化学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	林 雅弘	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	人体の構成成分である物質の構造および代謝				
到達目標	人体の構成成分である物質の構造および代謝について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	代謝総論	講義
2	代謝総論	
3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質	
4	生命維持に必要な栄養素の構造と性質	
5	酵素	
6	酵素	
7	さまざまな代謝：糖質代謝	
8	さまざまな代謝：脂質代謝	
9	さまざまな代謝：タンパク質とアミノ酸の代謝	
10	さまざまな代謝：核酸・ヌクレオチドの代謝	
11	エネルギー代謝の統合と制御	
12	エネルギー代謝の統合と制御	
13	遺伝情報	
14	先天性代謝異常	
15	先天性代謝異常	

テキスト 参考書等	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 メディカ出版
--------------	------------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、終講試験
------------------------------	-----------

授業科目	栄養学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	林 雅弘	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	人間にとっての栄養の意義を学び、健康維持に必要な栄養と摂取方法について				
到達目標	人間にとっての栄養の意義を学び、健康維持に必要な栄養と摂取方法を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	人間栄養学と看護	講義
2	栄養素の種類とはたらき	
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	
5	エネルギー代謝	
6	食事と食品	
7	食事と食品	
8	栄養ケア・マネジメント	
9	栄養ケア・マネジメント	
10	栄養状態の評価・判定	
11	ライフステージと栄養	
12	ライフステージと栄養	
13	臨床栄養	
14	臨床栄養	
15	健康づくりと食生活	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 医学書院
--------------	-----------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、終講試験
------------------------------	-----------

授業科目	疾病の成り立ちⅠ（総論）			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	中村 恵理子	取得資格	医師		
		実務経験	☒ 有・無	経験年数	10
授業内容	病理学の概要を学ぶ				
到達目標	病変と病態の関係を学び、現象の原理や法則および回復の促進について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	病理学の領域 ・病理学の概要、疾病の概要	講義
2	臍部・組織とその障害 ・壊死、アポトーシス、萎縮	
3	再生と修復 創傷治癒と肉芽組織、異物の処理、肥大と過形成	
4	再生と修復 創傷治癒と肉芽組織、異物の処理、肥大と過形成	
5	循環障害 充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症、	
6	循環障害 梗塞、体液の調節障害、ショック	
7	炎症 急性炎症、慢性炎症、肉芽腫性炎症	
8	免疫とアレルギー 生体における免疫系の役割、免疫系のしくみと働き	
9	代謝異常 脂質代謝異常、糖質代謝異常	
10	代謝異常 タンパク代謝異常、核酸代謝異常	
11	老化と老年病	
12	先天異常	
13	先天異常	
14	腫瘍 腫瘍の分類と名称	
15	腫瘍 悪性腫瘍の転移、腫瘍の発生と原因	
テキスト 参考書等	カラーで学べる病理学 ヌーベルヒロカワ	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	疾病の成り立ちⅡ－１			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	森山佐知子	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	循環器疾患、血液・造血機械疾患の概要を学ぶ				
到達目標	疾病の原因や形態的变化の特徴について理解し、系統的に疾病の病態・治療検査について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容		方法
1	循環器系疾患 1) 循環器の構造と機能 心臓の構造と機能		講義
2	2) 症状とその病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、ショック		
3	2) 症状とその病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、ショック		
4	3) 検査と治療・処置 検査：心電図、心臓カテーテル、心エコー		
5	3) 検査と治療・処置 処置：心臓カテーテル、ペースメーカー、冠状動脈バイパス術		
6	4) 疾患の理解 虚血性心疾患：動脈硬化、狭心症、心筋梗塞		
7	4) 疾患の理解 虚血性心疾患：動脈硬化、狭心症、心筋梗塞		
8	4) 疾患の理解 心不全、高血圧、不整脈、弁膜症、心膜炎、先天性心疾患		
9	4) 疾患の理解 心不全、高血圧、不整脈、弁膜症、心膜炎、先天性心疾患		
10	血液・造血器系疾患 1) 血液の生理と造血のしくみ		
11	2) 症状とその病態生理 貧血、出血性素因		
12	3) 検査と治療・処置 検査：血液検査、骨髄検査		
13	3) 検査と治療・処置 治療：化学療法、免疫療法、骨髄移植		
14	4) 疾患の理解 鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、血友病、悪性リンパ腫		
15	4) 疾患の理解 多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病		
テキスト 参考書等		系統看護学講座 成人看護学③ 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験
------------------------------	-----------

授業科目	疾病の成り立ちⅡ－２			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	森山佐知子	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	呼吸器疾患、腎泌尿器疾患の概要を学ぶ				
到達目標	疾病の原因や形態的变化の特徴について理解し、系統的に疾病の病態・治療検査について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	呼吸器系疾患 1) 呼吸器の構造と機能 呼吸器系の構造と機能、生理	講義
2	2) 症状とその病態生理 喀痰、咳、喀血、呼吸困難、チアノーゼ	
3	2) 症状とその病態生理 喀痰、咳、喀血、呼吸困難、チアノーゼ	
4	3) 検査と治療・処置 検査：血液検査、内視鏡検査、呼吸機能検査	
5	3) 検査と治療・処置 処置：吸入療法、酸素療法、胸腔ドレナージ	
6	3) 開胸術と肺切除、呼吸器外科手術に伴うおもな合併症とその対策	
7	4) 疾患の理解 肺炎、結核、気管支喘息、	
8	4) 疾患の理解 慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全、肺がん	
9	腎臓系疾患 1) 腎・泌尿器の構造と機能	
10	2) 症状とその病態生理 尿の異常、尿失禁、排尿困難、浮腫、高血圧	
11	2) 症状とその病態生理 低蛋白血症、発熱	
12	3) 検査と治療 尿の検査、腎機能検査、膀胱鏡検査、腎生検	
13	3) 検査と治療 透析療法	
14	4) 疾患の理解 急性腎不全、慢性腎不全、糸球体腎炎	
15	4) 疾患の理解 ネフローゼ症候群、腎腫瘍、前立腺肥大症	
テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	疾病の成り立ちⅡ-3(各論)			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	森山佐和子 他	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	消化器系疾患、内分泌・代謝系疾患アレルギー疾患、膠原病について				
到達目標	疾病の原因や形態的变化の特徴について理解し、系統的に疾病の病態・治療検査について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	消化器系疾患 1) 消化器の構造と機能	講義
2	2) 症状とその病態生理	
3	2) 検査と治療・処置 検査：内視鏡検査、肝生検、消化管透視	
4	3) 疾患の理解 食道癌、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、イレウス	
5	4) 疾患の理解 大腸癌、大腸ポリープ、肝炎、肝硬変症、肝臓癌、膵臓癌	
6	内分泌・代謝系疾患 1) 内分泌・代謝器官の構造と機能	
7	2) 症状とその病態生理	
8	3) 検査と治療・処置 ホルモンの血中濃度測定、超音波検査	
9	4) 疾患の理解 バセドウ病、糖尿病、高脂血症	
10	5) 疾患の理解 肥満症とメタボリックシンドローム、痛風	
11	アレルギー疾患 1)免疫のしくみとアレルギー 2) 症状とその病態生理	
12	3)検査と治療・処置 検査 4) 主な疾患の理解	
13	膠原病疾患 1)自己免疫疾患とその機序	
14	2) 症状とその病態生理 3)検査と治療・処置 検査	
15	4)主な疾患の理解	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑪ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、終講試験
------------------------------	-----------

授業科目	疾病の成り立ちⅡ－４			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	松本 英裕	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	33
授業内容	脳神経疾患、運動器疾患、感覚器に関わる疾患の概要を学ぶ				
到達目標	疾病の原因や形態的变化の特徴について理解し、系統的に疾病の病態・治療検査について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	脳・神経系疾患 1) 脳・神経系の構造と機能	講義
2	2) 症状とその病態生理 意識障害、言語障害、運動機能障害、頭痛	
3	3) 検査と治療・処置 検査：脳脊髄液検査、脳血管造影、脳波検査	
4	4) 疾患の理解 クモ膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳腫瘍	
5	5) 疾患の理解 髄膜炎、てんかん、認知症	
6	運動器疾患 1) 運動器の構造と機能	
7	2) 症状とその病態生理 疼痛、変形、関節拘縮、運動麻痺、知覚障害	
8	3) 診断・治療・検査 計測、X線検査、関節造影検査、関節鏡検査	
9	3) 診断・治療 保存療法(ギプス包帯法、牽引)理学療法、手術療法	
10	4) 疾患の理解 各種骨折、鎖骨骨折、上腕骨骨折、大腿骨頸部骨折	
11	感覚器に関わる疾患 1)目の構造と機能、症状とその病態生理	
12	2)主な疾患の理解	
13	3)耳鼻科に関わる疾患 1)症状と病態生理 2)主な疾患の理解	
14	4)歯・口腔に関わる疾患 1)症状と病態生理 2)主な疾患	
15	5)皮膚に関わる疾患 1)症状と病態生理 2)主な疾患	
テキスト 参考書等		系統看護学講座 成人看護学⑦・⑩・⑫・⑬・⑭・⑮ 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点		出席認定 定期試験

授業科目	疾病の成り立ちⅡ-5（各論）			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	① 松本 英裕 他 ② 野間 隆文	取得資格	① 医師 ② 歯科医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	① 33 ② 38
授業内容	感覚器疾患について学ぶ				
到達目標	疾病の原因や形態的变化の特徴について理解し、系統的に疾病の病態・治療検査について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	感覚器に関わる疾患 1) 目の構造と機能、症状とその病態生理	講義
2	2) 検査と治療：視力検査、眼圧検査、眼底検査、点眼、白内障手術、網膜剥離手術	
3	3) 疾患の理解：流行性角結膜炎、白内障、緑内障、網膜剥離	
4	感覚器に関わる疾患 1) 歯・口腔の構造と機能、	
5	2) 症状とその病態生理：歯痛、腫脹、口腔出血、開口障害	
6	3) 検査と治療・処置：口腔内検査、齲歯の治療、抜歯	
7	4) 疾患の理解：齲歯および歯髄疾患、辺縁性歯周炎（歯槽膿漏）	
8	感覚器に関わる疾患 1) 皮膚の構造と機能	
9	2) 症状とその病態生理 3)：免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査、皮膚生検	
10	3) 疾患の理解：湿疹、アレルギー性皮膚炎、蕁麻疹	
11	3) 疾患の理解：湿疹、アレルギー性皮膚炎、蕁麻疹	
12	感覚器に関わる疾患 1) 耳鼻咽喉の構造と機能	
13	2) 症状とその病態生理：難聴、耳鳴、眩暈、くしゃみ、鼻出血、嗄声	
14	3) 検査と治療：聴力検査、平衡機能検査、耳管通気検査、鼻鏡・喉頭検査	
15	4) 疾患の理解：中耳炎、突発性難聴、メニエル病、鼻出血、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、喉頭がん	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 成人看護学⑬ 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑭ 耳鼻 医学書院 成人看護学⑮ 歯 医学書院
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、終講試験
------------------------------	-----------

授業科目	看護病理学			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	椎葉さより	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	人体の構造・病態生理学の知識を看護に活用する。				
到達目標	1. 人体の構造・病態生理学の知識をもとに、病理学的変化（病変）によりもたらされる症候について理解できる。 2. 1 の理解を深め疾病を看護の視点で捉え、健康の保持増進、疾病の予防、健康回復につなげる知識を身につける。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	心臓の循環障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	講義・演習(GW)
2	心臓の循環障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
3	心臓の循環障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
4	呼吸障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
5	呼吸障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
6	呼吸障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
7	グループダイナミクス活用して各症候の原因とメカニズムを関連付けて理解できる。 TBL・試験	講義
8	消化器障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	講義・演習(GW)
9	消化器障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
10	腎機能障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
11	腎機能障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	
12	腎機能障害の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し看護を考えることができる。	講義
13	グループダイナミクス活用して各症候の原因とメカニズムを関連付けて理解できる。 TBL・試験	
14	事例をもとに病態関連図を作成できる。	講義・演習
15	グループ発表、まとめ	演習

テキスト 参考書等	専門基礎	人体の構造と機能〔1〕	解剖生理学	医学書院
	専門科目	成人看護学3	循環器	医学書院
	専門科目	成人看護学4	血液・造血器	医学書院
	専門科目	成人看護学2	呼吸器	医学書院
	専門科目	成人看護学5	消化器	医学書院
	専門科目	成人看護学8	腎・泌尿器	医学書院
	カラーで学べる病理学		ヌーベルヒロカワ	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、筆記試験、グループワーク			

授業科目	人体とくすり			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	山田 光子	取得資格	薬剤師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について学ぶ。				
到達目標	薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解する。 薬事法に基づいた薬物の管理について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	薬理学を学ぶにあたって	講義
2	薬理学の基礎知識	
3	抗感染症薬	
4	抗がん薬	
5	免疫治療薬	
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬	
7	末梢での神経活動に作用する薬物	
8	中枢神経系に作用する薬物	
9	循環器系に作用する薬物	
10	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	
11	物質代謝に作用する薬物	
12	皮膚科用薬・眼科用薬	
13	救急の際に使用される薬物	
14	漢方薬	
15	消毒薬	
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学 医学書院	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験
------------------------------	-----------

授業科目	感染と防御			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	峰松 俊夫	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	35
授業内容	微生物の種類及び特徴、感染症の検査と診断、消毒と滅菌の違いなどを学ぶ。				
到達目標	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。				

授業計画

回数	授業内 容	方法
1	微生物と微生物学	講義
2	細菌の性質	
3	真菌の性質	
4	原虫の性質	
5	ウイルスの性質	
6	感染と感染症	
7	感染に対する生体防御機構	
8	感染源・感染経路からみた感染症	
9	滅菌と消毒	
10	感染症の検査と診断	
11	感染症の治療	
12	感染症と現状と対策	
13	病原細菌と細菌感染症	
14	病原真菌と真菌感染症	
15	病原原虫と原虫感染症 病原ウイルスとウイルス感染症	
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学 医学書院	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	リハビリテーション論			時 間 数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	竜田 庸平	取得資格	理学療法士		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	リハビリテーション概論、障害のレベルに応じたリハビリテーションの基本的概念を学ぶ。				
到達目標	障害のレベルに応じたリハビリテーションの基本的概念を捉え、日常生活行動の自立に向けたリハビリテーションの実際と看護師の役割を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	リハビリテーション概説 リハビリテーション概論	講義
2	リハビリテーション看護概論	
3	リハビリテーション看護の基礎	
4	ボディメカニックスの理解と応用(演習)	
5	運動器系の障害とリハビリテーション看護	
6	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	
7	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護	
8	感覚器系の障害とリハビリテーション看護	
9		
10		
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況 定期試験	

授業科目	看護に活かす治療法			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	藤澤豊子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	12
授業内容	治療の原理・目的・特徴、治療が生体に及ぼす侵襲・副作用について学ぶ。				
到達目標	1. 現代医療で実践されている治療の原理・目的・特徴を理解し治療を受ける対象・家族の看護に活かすことができる 2. 治療が生体に及ぼす侵襲・副作用を理解し、対象が安全に検査・治療を受ける看護ができる				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	輸液療法とは 目的・特徴	講義
2	化学療法とは① 原理・特徴・副作用	
3	化学療法とは② 目的・方法・抗がん剤曝露からの防護	
4	化学療法とは③ 化学療法を受ける患者・家族への看護	
5	内分泌療法とは 原理・特徴・副作用	
6	放射線療法とは① 放射線の原理・特徴・目的	
7	放射線療法とは② 放射線の照射方法 放射線被爆からの防護（安全）	
8	放射線療法とは③ 放射線療法を受ける患者・家族への看護	
9	手術療法とは① 目的 生体への侵襲（術後の生体反応）	
10	手術療法とは② 術前から手術中の看護	
11	創傷処置/創傷ケアとは 創傷の治癒過程と処置	
12	身体侵襲を伴う検査・治療とは ①血液検査 ②穿刺液検査	
13	身体侵襲を伴う検査・治療とは ③内視鏡 ④X線 C T M R I	
14	身体侵襲を伴う検査・治療とは ⑤カテーテル検査・治療	
15	補完代替医療	
テキスト 参考書等		系統看護学講座専門分野Ⅰ臨床看護総論 基礎看護学④

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験
------------------------------	-----------

授業科目	医療論			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	相澤 潔	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	4 5
授業内容	日本の保健医療福祉の現状と生活の関連性を考える。				
到達目標	現代医療の動向と問題を把握し、医学の中での看護の位置づけを学ぶ。 現代医療の諸問題を理解する。				

授業計画

回数	授業内容	方法
1	援助と共感について	講義
2	医療と看護の原点	
3	医療の歩みと医療観の変遷、医療観のうつりかわり	
4	我が国の医療、命と健康	
5	もしも私たちが病気やけがをしたら	
6	私たちの生活と環境　・衛生・保健・福祉・行政	
7	救急救命のA B C	
8	生活習慣について　　高齢化社会について	
9		
10		
テキスト 参考書等	新体系看護学全書　健康支援と社会保障制度　現代医療論　メヂカルフレンド社	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点		

授業科目	関係法規			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	藤澤豊子	取得資格	なし		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	保健、医療、福祉に関する諸制度の中で、看護職がどのような位置づけをされているかを知り、看護職が他の保健医療関係者との中でどのような責任を担っているのかを学ぶ。				
到達目標	1. 職業人としての看護師の業務とその責任に関する法律について理解する。 2. 医療、福祉、健康など関連する法令について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	法規の概念（衛生法規の沿革、衛生法規の分類）	講義
2	医事法規（保健師助産師看護師法、医師法、医療法）	
3	薬事法規（薬剤師法、毒物及び劇薬取締法、覚醒剤取締法）	
4	医療過誤問題	
5	臓器移植に関する法	
6	母体保護法、母子保健法、死産の届出に関する規定	
7	男女雇用機会均等法、労働基準法	
8	看護師等の人材確保の促進に関する法	
9		
10		

テキスト 参考書等	わかりやすい公衆衛生学 最新版 ノーベルヒロカワ 国民衛生の動向
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート評価 定期試験

授業科目	公衆衛生			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	日野浦拓之	取得資格	なし		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	0
授業内容	公衆衛生の基礎と地域保健について				
到達目標	保健医療システムの概要を捉え、健康の保持・増進に関する活動について学び、保健・医療・福祉の動向および看護の役割を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容
1	公衆衛生の基礎 1) 公衆衛生の理念
2	公衆衛生の基礎 2) 公衆衛生の技術 ・ 人工、保健に関する統計指標
3	公衆衛生の基礎 3) 医療の動向と医療保障 ・ 医療保障制度と医療経済
4	公衆衛生の基礎 3) 医療の動向と医療保障 ・ 介護保険制度
5	公衆衛生と地域保健 1) 地域保健の特性と地域保健活動
6	公衆衛生と地域保健 2) 母子保健 ・ 健やか親子 21 と母子保健施策
7	公衆衛生と地域保健 3) 学校保健
8	公衆衛生と地域保健 4) 成人・老人保健
9	公衆衛生と地域保健 5) 精神保健
10	公衆衛生と地域保健 6) 難病対策
11	公衆衛生と環境保健 1) 生活環境 ・ 環境問題
12	公衆衛生と環境保健 2) 産業保険
13	公衆衛生と環境保健 3) 感染症とその予防
14	公衆衛生と環境保健 4) 食中毒
15	公衆衛生と環境保健 5) 職場と健康

テキスト 参考書等	わかりやすい公衆衛生学 最新版 ヌーベルヒロカワ 国民衛生の動向
--------------	-------------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート評価 定期試験
------------------------------	------------------

授業科目	医療倫理			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	田代 学	取得資格	医師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	4 2
授業内容	医療倫理の必要性を学び、事例を用いて道徳的判断をする。				
到達目標	1. 医療倫理に関する基本的知識を習得する。 2. 専門職として社会的責任の範囲など必要な姿勢を身につける。 3. 倫理的意志決定を行うための枠組みを理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	倫理の基礎 ・ 倫理とは 価値、社会的規範、倫理と価値、倫理と法律	講義
2	医療倫理の基礎 ・ ヒポクラテスの誓い 先端医療と医の倫理	
3	医療倫理の基礎 ・ 戦後の国際認識の歩み 生命倫理	
4	医療倫理の必要性 ・ 医療現場での倫理の必要性 医療という仕事の特質	
5	医療倫理の必要性 ・ 医療現場での倫理の必要性 患者-医療関係	
6	医療倫理の必要性 ・ 医療職にとっての倫理 患者のニーズの充足	
7	道徳的判断における方法論 ・ 倫理原則 道徳的判断のための枠組み	
8	道徳的判断における方法論 倫理的意志決定のための仕組み：倫理委員会	
テキスト 参考書等	・ 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 現代医療論 メヂカルフレンド社 ・ 新版看護者の基本的責務 日本看護協会監修 日本看護協会出版院	
成績評価 及び単位 認定の方法 履修上の 留意点	出席認定 レポート評価 終講試験	

授業科目	社会福祉論			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	俵 美樹	取得資格	社会福祉士 精神保健福祉士		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17
授業内容	社会福祉と社会保障制度を学び、グループワークを通して社会福祉実践について考える。				
到達目標	現代社会において社会福祉が必要とされる理由を理解し、その歴史及び制度や政策の意義、理念について理論的に理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	社会福祉の歴史	講義
2	社会保障制度と社会福祉	
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	
4	医療保障、介護保障	
5	介護保障、公的扶助	
6	所得保障、公的扶助	
7	社会福祉の分野とサービス	
8	社会福祉の分野とサービス	
9	社会福祉の分野とサービス	
10	社会福祉の分野とサービス	
11	社会福祉の分野とサービス	
12	社会福祉実践と医療・看護	
13	社会福祉実践と医療・看護	
14	社会福祉実践と医療・看護	
15	社会福祉実践と医療・看護	演習
テキスト 参考書等	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 医学書院	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 定期試験	

授業科目	地域福祉特論			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	高山幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
授業内容	地域における社会福祉の現状（地域福祉の現状・ノーマライゼーション・社会福祉協議会・障害者支援等）				
到達目標	地域福祉の現状を捉え、人に優しい福祉のまちづくりがなされているか一人ひとりが考え、思いやりの心をもって互いに尊重しあう人間をこの社会が求めていることを学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	地域における社会福祉の現状 （地域福祉の現状・ノーマライゼーション・社会福祉協議会・障害者支援等）	講義
2	校外学習・サロン活動のための準備①	演習
3	校外学習・サロン活動のための準備②	
4	校外学習 サロン活動への参加①	
5	校外学習 サロン活動への参加②	
6	校外学習のまとめ① GW	
7	校外学習のまとめ② GW	
8	校外学習のまとめ・発表	

テキスト 参考書等	・系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 ・系統看護学講座 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート プレゼンテーション

授業科目	基礎看護学概論			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	藤澤 豊子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	12年
授業内容	1. 看護を实践するにあたって、基本的な姿勢・考え方を学ぶ。				
到達目標	・看護の概念を学び、看護の本質を理解する。 ・人間における健康の意義を明らかにし、健康と看護について学ぶ。 ・看護の対象である人間を総合的に理解する。 ・医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマに取り組むことができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	看護の変遷	講義
2	理論家による看護のとらえ方	
3	概念モデルによる看護の説明	
4	看護の機能と役割	
5	健康の概念 国民の健康の全体像	
6	国民のライフサイクルと健康・生活	
7	人間のこころとからだ	
8	生涯発達しつづける存在としての人間	
9	人間の暮らしの理解	
10	現代社会と倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	
11	看護実践における倫理的問題	
12	具体的な看護実践におけるジレンマ I	演習
13	具体的な看護実践におけるジレンマ2	
14	臨床における看護研究の実践	講義
15	文献検索	演習
テキスト 参考書等	・系統看護学講座 専門 基礎看護概論 医学書院 ・看護覚え書き ・看護の基本となるもの 日本看護協会出版会	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート課題 終講試験
------------------------------	------------------

授業科目	基礎看護学技術Ⅰ－１			時間数	60
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	2
担当講師	鍛冶田 理恵	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	・看護技術の概念 ・ヘルスアセスメントの概念 ・ヘルスアセスメントの実際				
到達目標	看護技術の概念を理解し、看護技術の必要性を学ぶ。 看護におけるヘルスアセスメントの概念、必要性を学ぶ。 フィジカルアセスメントの知識、技術を習得し、実施できる。 臨床推論に必要な基本的な知識を修得できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	看護技術を学ぶにあたって	講義
2	ヘルスアセスメントの意義と目的	
3	ヘルスアセスメントに必要な技術	
4	健康歴とセルフケアの能力のアセスメント(問診の技術)	
5	全体の概観(フィジカルアセスメントに必要な技術)	
6	全体の概観(全身状態・全体印象の把握)	
7	全体の概観(バイタルサインの観察とアセスメント)	
8	全体の概観(バイタルサインの観察とアセスメント)	
9	記録、報告	
10	演習：ヘルスアセスメントの実際：バイタルサインの観察とアセスメント、計測	演習
11	系統別フィジカルアセスメント：頭頸部のフィジカルアセスメント	講義
12	系統別フィジカルアセスメント：呼吸器系のフィジカルアセスメント	
13	系統別フィジカルアセスメント：呼吸器系のフィジカルアセスメント	
14	系統別フィジカルアセスメント：循環器系のフィジカルアセスメント	
15	系統別フィジカルアセスメント：循環器系のフィジカルアセスメント	
16	系統別フィジカルアセスメント：乳房、腋窩のフィジカルアセスメント	
17	系統別フィジカルアセスメント：腹部のフィジカルアセスメント	
18	系統別フィジカルアセスメント：筋・骨格系のフィジカルアセスメント	

19	系統別フィジカルアセスメント: 神経系のフィジカルアセスメント	
20	系統別フィジカルアセスメント外皮系のフィジカルアセスメント	講義
21	フィジカルアセスメント演習(呼吸音・心音・腸蠕動音聴診シミュレーター演習)	演習
22	検査データの読み方	講義
23	心理的側面のアセスメント	
24	社会的側面のアセスメント	
25	事例から患者に必要なフィジカルアイグザミネーションを考える(GW)	演習
26	症状を持つ患者へのフィジカルアイグザミネーションの実践	講義
27	症状を持つ患者へのフィジカルアイグザミネーションの実践	
28	振り返り学習	演習
29	事例提示によるバイタルサイン測定(実技試験)	
30	事例提示によるバイタルサイン測定(実技試験)	

テキスト 参考書等	・系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 ・基礎・臨床看護技術 医学書院 ・配布資料
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、レポート、実技試験(バイタルサイン測定)、筆記試験

授業科目	基礎看護学技術Ⅰ－Ⅱ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	鍛冶田 理恵① 日高 里美②	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	①6、②15
授業内容	・看護におけるコミュニケーション技術 ・対象とよりよい人間関係を築く基礎 ・看護活動における安全・安楽の意義 ・安全、安楽の基礎的な知識と技術				
到達目標	・看護におけるコミュニケーションの基礎について理解する。 ・自己理解、対象理解の基礎を修得する。 ・看護介入における安全の意義が理解できる。 ・感染防止の基礎的知識、技術が習得できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容		方法	講師
1	看護におけるコミュニケーションの意義・特性・目的		講義	鍛冶田
2	コミュニケーションの構成要素			
3	コミュニケーションに影響を与える要因			
4	関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・コミュニケーション過程に必要な看護師の能力			
5	演習（効果的なコミュニケーション・プロセスレコードの書き方）			
6	プロセスレコードの書き方 コミュニケーション障害者 への対応			
7	看護介入における安全の意義		講義	日高
8	感染防止の基礎知識			
9	標準予防策 ・感染経路別予防策			
10	衛生的手洗い・防護用具の着用・外し方		演習	
11	洗浄・消毒・滅菌		講義	
12	無菌操作			
13	感染性廃棄物の取り扱い			
14	滅菌物の取り扱い		演習	
15	針刺し事故防止策 ・まとめ		講義	
テキスト 参考書等		・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ、基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 ・「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」日総研 ・基礎・臨床看護技術 医学書院		

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、筆記試験
------------------------------	-----------

授業科目	基礎看護学技術Ⅱ－１			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	日高 里美	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	15
授業内容	健康障害をもち、援助を必要とする対象への日常生活行動における基礎的援助技術を習得する。				
到達目標	１．対象の健康的な環境条件について理解し生活環境調整技術を身につける。 ２．姿勢、体位の意味を理解し体位変換・姿勢保持、移動・移送の技術を身につける。 ３．睡眠と睡眠障害について理解し良好な睡眠・休息への援助技術を身につける。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	健康生活と環境、療養生活環境	講義
2	病室の環境のアセスメントと調整	
3	ベッド周囲の環境整備、病床の作り方、整備の方法	
4	ボディメカニクス原理	
5	人間の健康にとってのよい体位、ボディメカニクス原理	
6	クローズドベッド作成	演習
7	臥床患者のシーツ交換	
8	移動・移送の目的、方法、留意点	
9	体位変換の目的、方法、留意点	講義
10	体位変換（左右移動、側臥位、ファウラー位、長座位、端座位、立位）①	演習
11	体位変換（左右移動、側臥位、ファウラー位、長座位、端座位、立位）②	
12	移乗・移送（車いす、ストレッチャー）①	
13	移乗・移送（車いすへ、ストレッチャー）	
14	健康生活と睡眠、睡眠障害のアセスメント、援助	講義
15	実技試験（臥床患者のシーツ交換）	演習
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 湯楨ます他 訳 ナイチンゲール＝看護覚え書 現代社	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート 筆記試験（70点）、実技試験（30点）	

授業科目	基礎看護技術Ⅱ－２			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1 年生	単 位 数	1
担当講師	森崎 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17
授業内容	①栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント ②食事介助と口腔ケア ③経腸栄養法（栄養剤の種類と特徴）④排尿・排便のアセスメント ⑤自然排尿・自然排便の介助 ⑥導尿・グリセリン浣腸・摘便				
到達目標	1. 健康障害をもち、援助を必要とする対象への基礎的生活援助技術を習得する。 ①食事のニーズの援助を身につけることができる。 ②排泄のニーズの援助を身につけることができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	食事とは(GW)、看護師の役割、食事に関する基礎知識・アセスメント	講義 演習
2	摂取・嚥下能力、摂取行動、認識行動のアセスメント、食事の介助	講義
3	非経口的栄養摂取の援助（経管栄養法・中心静脈栄養法）	
4	食事介助・口腔ケアの実際	演習
5	経管栄養法、演習の振り返り	講義 演習
6	自然排尿および自然排便の基礎知識、排泄について考える(GW)	
7	排泄機能とメカニズム、アセスメント	講義
8	自然排尿および自然排便の介助の実際、トイレ・ポータブルトイレ・床状排泄・オムツ排尿・排便の介助	
9	ポータブルトイレ・床上排泄の援助	演習
10	導尿（一時的・持続的）、導尿の看護技術	講義
11	導尿（一時的・持続的）の援助	演習
12	排便を促す援助、浣腸・摘便・高圧浣腸の看護技術	講義
13	浣腸・高圧浣腸・摘便の援助	演習
14	事例を通して食事と排泄について考える(GW)	
15	食事と排泄のまとめと復習	講義
テキスト 参考書等	教科書：系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 参考文献：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 視聴覚教材：実践看護技術シリーズ（食事・排泄の援助）	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・レポート・出席認定
------------------------------	----------------

授業科目	基礎看護技術Ⅱ－3			時間数	30 時間
学 科	看護学科	学 年	1 年生	単 位 数	1 単位
担当講師	森崎 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17 年
授業内容	①清潔援助の効果と全身への影響について ②清潔援助の方法選択の視点 ③清潔援助の基礎知識と実際について ④病床での衣生活の基礎知識と援助の実際 ⑤寝衣交換の手順				
到達目標	健康障害を持ち、援助を必要とする対象への基礎的生活援助技術を習得する。 ①衣生活のニードの援助を身につけることができる。 ②清潔のニードの援助を身につけることができる。				

授業計画

No	授 業 内 容	方法
1	清潔、衣生活援助技術、病床での衣生活	講義
2	寝衣交換、寝衣のたたみ 麻痺・点滴のある患者の援助	演習 講義
3	入浴、シャワー浴、清拭	講義
4	清拭、寝衣交換①	演習
5	清拭、寝衣交換②	
6	洗髪①	
7	洗髪② 足浴・手浴①	
8	洗髪③ 足浴・手浴②	
9	足浴・手浴③ 清拭・寝衣交換①	
10	足浴・手浴④ 清拭・寝衣交換②	
11	清拭・寝衣交換③	
12	清拭・寝衣交換④	
13	清拭・寝衣交換技術試験①	
14	清拭・寝衣交換技術試験②	
15	整容、まとめ	講義

テキスト 参考書等	教科書：系統的看護学講座 専門①基礎看護技術Ⅱ 医学書院 参考文献：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 視聴覚教材：看護技術シリーズ（清潔）
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・技術試験・レポート・出席認定
------------------------------	---------------------

授業科目	基礎看護学技術Ⅲ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	森崎 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17 年
授業内容	・与薬に関する基礎知識と実際 ・診療の目的と看護の役割 ・検査介助に関する基礎知識 ・輸血の基礎知識と看護の役割 ・電法の効果と適応 ・穿刺の基礎知識と看護の役割				
到達目標	診療、治療過程に伴う看護技術を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	与薬に関する基礎知識（薬事法と薬物管理、投薬経路）	講義
2	経口与薬（内服、口腔内与薬）、吸入、点眼、点鼻の基礎知識と実際	
3	経皮的与薬、直腸内与薬の基礎知識と実際、注射の実施方法（薬液の吸い上げ、皮下・皮内注射：DVD）	
4	注射の実施方法（薬液の吸い上げ、静脈内注射、点滴静脈内注射：演習）	演習
5	注射の実施方法（筋肉内注射：演習）	
6	筋肉内注射（技術試験）	
7	診察の目的と看護の役割、検査介助に関する基礎知識	講義
8	検体の採取と取扱い（尿検査、24 時間蓄尿法、早朝尿、尿細菌検査）	
9	検体の採取と取扱い（便検査、採便法、蛭虫卵検査、喀痰検査、血液検査：DVDを含む）	
10	検体の採取と取扱い（血液検査：演習）	演習
11	輸血の目的と看護師の役割、輸血の基礎知識と実際	講義
12	電法の効果と適応、電法の方法（氷枕、氷嚢、湯たんぽ）	
13	電法の方法（氷枕、湯たんぽ：演習、 氷嚢：デモスト）	演習
14	穿刺の意義と看護師の役割、穿刺の基礎知識、穿刺の援助（胸腔穿刺）	講義
15	穿刺の援助（腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺）	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門③ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔3〕医学書院 参考文献：基礎・臨床看護技術 医学書院 根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 1 2 基礎看護学③
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・実技試験（筋肉内注射）・レポート・出席認定
------------------------------	----------------------------

授業科目	基礎看護技術Ⅳ－１			時間数	１５時間
学 科	看護学科	学 年	１ 年	単 位 数	１ 単位
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	１０ 年
授業内容	①急性期にある患者の看護 ②慢性期にある患者の看護 ③リハビリテーション期にある患者の看護 ④終末期にある患者の看護 ⑤死の看取りの技術、死後の処置				
到達目標	健康障害をもつ対象を理解し、健康レベルに応じた看護についての基本を理解することができる。 ①急性期・回復期 ②慢性期 ③リハビリテーション期 ④終末期				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
１	急性期の経過を辿る患者の看護（急性期とは、治療、患者・家族の特徴）	講義
２	急性期にある対象の看護（事例を通してグループワーク）	演習
３	慢性期の経過を辿る患者の看護（慢性期とは、慢性疾患、治療・看護の特徴）	講義
４	慢性期にある対象の看護（事例を通してグループワーク）	演習
５	リハビリテーション期にある対象の看護	講義
６	終末期にある患者の看護（終末期・医療、患者の特徴、患者の看護、家族への援助）	
７	終末期の看護（看取りの看護、死後の処置、DVD 視聴）	
８	死後の処置（演習）	演習
９		
１０		

テキスト 参考書等	筆記試験、レポート、出席認定
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	教科書：系統看護学講座 臨床看護総論、基礎看護技術Ⅱ 医学書院 参考書：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 視聴覚教材：看護技術シリーズ（死後の処置）

授業科目	基礎看護技術Ⅳ－２			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1 年生	単 位 数	1
担当講師	鍛冶田 理恵	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	① 呼吸障害、循環障害、発熱のある患者の看護 ② ②周手術期の看護 ③ BLS の基礎知識と援助方法				
到達目標	1. 呼吸、循環障害、発熱のある対象の特性を理解し、苦痛緩和の看護を学ぶ。 2. 手術を受ける対象とその家族の特徴を理解し、その援助方法の実際を学ぶ。 3. 救急救命を必要としている対象と家族の特徴を理解し、その援助方法を学ぶ。				

授業計画

回数	授業内容	方法
1	呼吸障害とは	講義
2	呼吸障害のある対象・家族への看護	
3	循環器障害とは	
4	循環器障害のある対象・家族への看護	
5	痛み、発熱のある対象の看護	
6	手術とは	
7	周手術期における看護師の役割	
8	周手術期における生体への侵襲とは	
9	手術前の看護	
10	手術中の看護	
11	手術後の看護	
12	手術に伴う援助技術	
13	BLS の基礎知識	
14	BLS のための援助方法（AED・演習）	演習
15	医療機器の原理と実際（演習）	
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 臨床外科看護総論 医学書院 講義時の配布資料	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・レポート・出席認定	

授業科目	基礎看護学技術 V			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	19 年
授業内容	1. 看護過程とは 看護過程のプロセス 2. 看護過程の展開の方法 3. 紙上事例での看護過程の展開の演習				
到達目標	対象の健康問題を系統立てて、科学的に解決するための方法が習得できる。 看護過程展開の記録の方法・ルールを習得できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	看護過程の概念 看護過程の意義 問題解決過程としての看護過程	講義
2	看護過程の構成要素 ヘンダーソンのカテゴリー	
3	看護過程の展開方法 ①情報の収集と整理	
4	看護過程の展開方法 ②アセスメント 分析・解釈のステップ	
5	看護過程の展開方法 ③看護上の問題の表現方法	
6	看護過程の展開方法 ④関連図の作成方法と看護の方向性	
7	看護過程の展開方法 ⑤計画立案： 目標設定のルール	
8	看護過程の展開方法 ⑥計画立案：対策項目（OP CP EP）と表現方法	
9	看護過程の展開方法 ⑦実施と看護記録 看護記録の記録方法	
10	看護過程の展開方法 ⑧評価と看護要約	
11	看護過程の展開の実際 ①紙上事例の情報収集（演習）	演習
12	看護過程の展開の実際 ②紙上事例のアセスメント（演習）	
13	看護過程の展開の実際 ③関連図作成（演習）	
14	看護過程の展開の実際 ④看護計画立案（演習）	
15	看護過程の展開の実際 ⑤看護記録 看護の評価（演習）	
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門1 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューベルヒロカワ 講義で配布するワークプリント	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	終講試験 レポート提出 出席認定	

授業科目	地域とくらし			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	高山 幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
授業内容	暮らしの基盤である地域の理解、地域包括ケアシステム、障害者施設を訪問し疾病や障害をもちながら暮らす地域の人々をフィールドワークを行いまとめる				
到達目標	1.自分の暮らす地域の特徴を知り、地域のなかで人々が支え合って生きていくことの重要性が理解できる。 2.疾病や障害をもちながら自分らしい生活を継続するために、地域の施設で暮らす生活者についてまとめることができる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	暮らしの基盤としての地域の理解（国・宮崎県・西都市の人口の推移、年齢や産業、地域で多い疾患、地域・在宅看護の重要性）	講義
2	支えあって生きる（地域包括ケアシステム、日常にある自助・互助・公助・共助、公的なサポートと制度）	
3	災害により変化した暮らし（住まいや暮らしの変化が基礎疾患に与える影響、家族の介護負担の増強、近隣住民が助け合う姿勢）	
4	疾病や障害をもちながら暮らす① 障害者施設を訪問（フィールドワーク）	演習
5	疾病や障害をもちながら暮らす② フィールドワークのまとめ GW	
6	疾病や障害をもちながら暮らす③ フィールドワークのまとめ GW	
7	疾病や障害をもちながら暮らす④ フィールドワークのまとめ GW	
8	疾病や障害をもちながら暮らす⑤ まとめと発表	
テキスト 参考書等		系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点		・レポート「暮らしと健康と看護」 ・出席認定

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	高山 幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
授業内容	地域包括ケアシステム、地域・在宅看護の対象者、地域における暮らしを支える看護を学ぶ。				
到達目標	1. 地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる 2. 地域・在宅看護の対象者と、多様な場での看護活動を理解する。 3. 地域・在宅看護に関わる制度や社会資源を理解できる。 4. 地域包括ケアシステム等の意義を理解し、地域で暮らし続けるために支援する看護活動を理解する。				

授業計画

回数	授業内容	方法
1	「地域包括ケアシステム」の更なる推進	講義
2	地域・在宅看護の対象者 家族の理解	
3	家族を理解する 演習	
4	地域における暮らしを支える看護①	
5	地域における暮らしを支える看護②	
6	地域における暮らしを支える看護③	
7	地域・在宅看護実践の場と連携①	
8	地域・在宅看護実践の場と連携②	
9	多職種との連携・協働を考える 演習	演習
10	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ①介護保険制度	講義
11	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ②医療保険制度	
12	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ③訪問看護の制度	
13	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用④訪問看護ステーションに関する規定	
14	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ⑤ケアマネジメントと社会資源	
15	地域保健に関わる法制度 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関する法制度	
テキスト 参考書等		系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 出席認定
------------------------------	--------------

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ－１			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	高山幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有・無	経験年数	18
授業内容	地域・在宅看護における看護過程の展開 地域・在宅看護における時期別の看護				
到達目標	1. 生活の中で医療・介護をなじませていく、各段階における看護過程のポイントを理解する。 2. 地域・在宅看護の対象者（療養者・家族）の QOL の維持・向上をめざす看護展開の方法を理解する。 3. 地域・在宅看護を発展させる視点をもつことの重要性を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	地域・在宅看護における看護過程の展開① 生活環境や家族への視点 情報収集とアセスメント	講義
2	地域・在宅看護における看護過程の展開② 目標設定の視点 具体的看護計画立案	
3	地域・在宅看護における看護過程の展開③ 看護計画の実施と評価	
4	地域・在宅看護における時期別の看護① 健康な時期、入院時、退院前	
5	地域・在宅看護における時期別の看護② 移行期、安定期、リハビリテーション期、急性増悪期	
6	地域・在宅看護における時期別の看護③ 終末期・グリーフケア・継続看護の重要性	
7	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働	
8	地域・在宅看護活動の創造	
9	まとめ	
10		
11		

テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 出席認定

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ－2			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	藤木由紀子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	15
授業内容	暮らしを支える看護技術、エンパワメントを考慮した教育指導				
到達目標	1. 地域・在宅看護における基本的姿勢・マナーを理解できる。 2. 療養者や家族などとの会話の仕方や聞く姿勢、相手に意見を伝えられる態度やコミュニケーションのあり方を身に着ける。 3. 地域・在宅看護に活かせる情報収集のポイントを理解し、エンパワメントを考慮した教育指導のあり方を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	暮らしの場で看護をするための心構え・マナー	講義
2	暮らしを支える看護技術① 地域・在宅看護におけるコミュニケーション聞くため（情報収集）の技術 聞かれた時のため技術 積極的傾向と共感 関係構築技法	
3	療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策	
4	エンパワメントを考慮した教育指導① 環境整備	
5	エンパワメントを考慮した教育指導② 生活リハビリテーション	
6	暮らしを支える看護技術① 呼吸・循環 食生活・嚥下 排泄のアセスメント	
7	暮らしを支える看護技術② 清潔の援助 アセスメント	
8	暮らしを支える看護技術③ 清潔の援助 演習	演習
9		
10		

テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 出席認定

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ－３			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	柴田栄子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
授業内容	医療的管理を必要とする対象への看護技術 地域・在宅における非経口的栄養摂取方法の管理 地域・在宅における終末期の看護				
到達目標	1. 地域・在宅における療養者と家族の状況に応じた医療ケアを取り入れた管理の方法を検討できる。 2. 主な疾患別の地域・在宅看護の実際を理解し、多職種との連携と協働のもとに成り立つ重要性が理解できる。 3. 地域・在宅看護を展開するためのマネジメントの基礎的能力について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	医療的管理を必要とする対象への看護技術 医療ケアの原理原則 リスクマネジメント	講義
2	地域・在宅における非経口的栄養摂取方法の管理① 経管栄養・胃瘻	
3	地域・在宅における非経口的栄養摂取方法の管理② 中心静脈栄養法・末梢静脈栄養法の管理 医療廃棄物の取り扱い	
4	地域・在宅における非経口的栄養摂取方法の管理③ 演習	演習
5	地域・在宅における在宅酸素（HOT）	講義
6	地域・在宅における人工呼吸器療法（HMV） 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の管理 排痰法の技術	
7	地域・在宅における創傷管理	
8	地域・在宅看護における与薬の管理	
9	悪性新生物と闘う人々への支援と外来癌治療管理	
10	医療的ケア児を取り巻く状況	
11	地域・在宅における終末期の看護 ①全人的な痛みへの支援	
12	地域・在宅における終末期の看護 ②がん終末期	
13	地域・在宅における終末期の看護 ③老衰	
14	地域・在宅における終末期の看護 ④難病	
15	地域・在宅看護マネジメント	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	記試験 出席認定

授業科目	地域・在宅看護論Ⅲ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	高山幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
授業内容	事例による看護過程の展開、医療機器業者による医療機器の説明、在宅看取りを希望する療養者と家族の不安				
到達目標	1. 療養者と家族の健康状態・生活状況・価値観・思いを尊重して地域での暮らしを継続するための具体的看護計画が立案できる。 2. 療養者・家族の尊厳に配慮し、倫理的問題を多職種と多角的な角度から判断し、QOL維持・向上するための看護のあり方が理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	事例「老々介護と認知症～COPD」による看護過程の展開① 地域・在宅における情報収集の視点	講義
2	事例による看護過程の展開② 情報の整理と統合（関連図）	
3	事例による看護過程の展開③ 個人作成関連図発表 グループ（実習）内で関連図を作成する	演習 （GW）
4	事例による看護過程の展開④ 関連図を用いた生活上の課題抽出と優先順位の決定	
5	事例による看護過程の展開⑤ 対象の充足状態を意識した未充足の分析	講義
6	事例による看護過程の展開⑥ 対象の充足状態を意識した目標の設定 計画書の作成	
7	事例による看護過程の展開⑦ 個人計画の発表 グループ（実習）内で計画を作成する	演習 （GW）
8	事例による看護過程の展開⑧ 効果的なパンフレットの作成と発表	講義
9	医療機器業者による医療機器の説明① 講義	
10	医療機器業者による医療機器の説明② 体験学習	
11	在宅看取りを希望する療養者「悪性新生物」と家族の不安① 病期別に必要な看護	
12	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安② 倫理的問題を解決するための多職種との連携・協働	
13	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安③ ロールプレイ①：終末期後期の対象者とのコミュニケーション	
14	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安④ ロールプレイ②：終末期後期を看取る家族とのコミュニケーション	
15	筆記試験 地域・在宅看護論実習オリエンテーション	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・課題レポート・出席認定・パンフレット

授業科目	成人看護学 I			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	橋本 恵子	取得資格	看護師、保健師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	成人の特徴と多様な健康問題を把握し、健康維持増進の重要性および成人看護の意義と役割を学ぶ。				
到達目標	1. 成人期の特徴を身体面・精神面・社会面から理解する。 2. 成人の健康問題に影響を及ぼす要因と成人期の健康問題を理解する。 3. 成人の健康を維持・増進するための保健活動を理解する。 4. 労働環境の健康に与える影響を知り労働者に対する保健対策を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	成人の定義、成人の理解	講義
2	成人期の特徴：ライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題	
3	成人をとりまく今日の現状：①家族をめぐる状況	
4	成人をとりまく今日の現状：②仕事をめぐる状況	
5	成人をとりまく今日の現状、③日常生活スタイルの変化	
6	成人保健と今日の健康動向①人口構成	
7	成人保健と今日の健康動向②平均寿命と健康寿命	
8	成人保健と今日の健康動向①疾病の概況（健康状態、受療状況）	
9	成人保健と今日の健康動向②疾病の概況（入院期間、死亡の動向と健康問題）	
10	保健・医療・福祉政策と今日の健康問題①ヘルスプロモーション	
11	保健・医療・福祉政策と今日の健康問題②高齢者政策、がん政策	
12	生活習慣に関連する健康障害（生活習慣病）	
13	職業に関連する健康障害と対策	
14	生活ストレスに関連する健康障害と対策	
15	成人期にある人を看護するために関連する理論（ストレス・コーピング、セルフケア）	
テキスト 参考書等	NICE 成人看護学 成人看護学概論 南江堂 厚生指針 国民衛生の動向 厚生労働統計協会	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート 定期試験
------------------------------	----------------

授業科目	成人看護学Ⅱ－１			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10 年
授業内容	1. 呼吸機能障害のある対象の看護 2. 循環機能障害のある対象の看護 3. 体液調節機能障害のある対象の看護 4. 造血機能障害のある対象の看護				
到達目標	1. 呼吸・循環・体液機能が障害された症状・検査治療を理解し。必要な看護の知識を習得する				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	呼吸循環のメカニズム	講義
2	呼吸機能障害の症状に対する看護	
3	呼吸機能障害の検査・治療を受ける患者の看護	
4	胸腔ドレナージ 人工呼吸管理	
5	主な呼吸機能障害の疾患に対する看護	
6	呼吸器の手術を受ける患者の看護	
7	循環機能障害の症状に対する看護	
8	循環器疾患の検査・治療を受ける患者の看護	
9	主な循環機能障害の疾患の患者の看護	
10	循環器の手術を受ける患者の看護	
11	体液調節機能障害の症状に対する看護	
12	体液調節機能障害の治療・処置、透析を受ける対象の看護	
13	造血機能の振り返り 造血機能障害の症状に対する看護	
14	検査・治療（マルク・輸血・化学療法）を受ける対象の看護	
15	代表的な造血機能障害の患者の看護	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学2呼吸器 成人看護学3循環器 成人看護学4 血液・造血器 成人看護学8腎・泌尿器 臨床外科総論 :医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	終講試験 レポート 出席認定

授業科目	成人看護学 II - 2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10 年
授業内容	1. 消化・吸収機能障害のある対象の看護 2. 栄養代謝障害・内分泌機能障害のある対象の看護				
到達目標	1. 消化・吸収・栄養代謝機能が障害された対象の症状・検査・治療を理解し、必要な看護の知識を習得する				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	消化器障害の症状に対する看護	講義
2	消化器症状のある対象の検査・処置に対する看護	
3	消化器障害の治療に対する看護	
4	代表的な消化器機能障害の対象の看護過程	
5	代謝障害の症状に対する看護	
6	代謝障害の検査・処置に対する看護	
7	代謝障害の治療に対する看護	
8	代表的な代謝機能障害の疾患患者の看護過程	
9	手術を受ける対象の看護	
10	内分泌機能の復習	
11	内分泌機能障害の症状に対する看護	
12	内分泌機能障害の治療に対する看護	
13	代表的な内分泌機能障害の対象の看護	
14	代表的な内分泌機能障害の対象の看護	
15	対象に対する生活指導・健康管理	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 成人看護学 6 内分泌・代謝 別巻 臨床外科各論 : 医学書院 基礎看護学Ⅴで使ったテキスト・資料
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	終講試験 レポート 出席認定

授業科目	成人看護学Ⅱ-3			時間数	30時間
学 科	看護学科	学 年	2 年	単 位 数	1 単位
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有・無	経験年数	10
授業内容	①意識とは、意識障害、運動機能障害のある患者の看護とアセスメント ②疾患をもつ患者の看護・アセスメント ③演習：麻痺のある患者の移乗 ④運動器疾患患者の援助の知識と技術 ⑤運動器疾患患者の症状、検査・保存療法・手術療法を受ける患者の看護				
到達目標	意識障害、活動機能障害のある対象の主要症状、治療・処置が対象に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践するための知識・技術を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	意識とは、意識障害と看護について	講義
2	運動機能障害のある患者の看護、アセスメント	
3	運動機能障害のある患者の看護、アセスメント	
4	頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護	
5	くも膜下出血患者の看護	
6	くも膜下出血患者のアセスメント、看護活動	
7	パーキンソン患者の看護、脳梗塞患者の看護	
8	演習（対光反射と麻痺のある患者の車椅子移動）	
9	運動器疾患患者の援助のためのおもな知識と技術	
10	運動器疾患患者の症状に対する看護	
11	症状に関する看護、検査を受ける患者の看護	
12	保存療法に対する患者の看護（ギプス・牽引）	
13	手術療法を受ける患者の看護（ワークシートでグループワーク）	
14	疾患をもつ対象の看護（大腿骨骨折、四肢切断、腰椎ヘルニア）	
15	疾患をもつ患者の看護（脊髄損傷、人工股関節全置換術を受ける患者の看護	演 習 (GW)

テキスト 参考書等	教科書：系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑩ 運動器 医学書院
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定・レポート評価・筆記試験
------------------------------	------------------

授業科目	成人看護学Ⅱ－４			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	36
授業内容	生体防御機能に障害のある対象の看護（アレルギー疾患・膠原病・感染症） 性・生殖機能障害のある対象の看護（子宮がん・乳がん・前立腺がん・精巣腫瘍）				
到達目標	1. 身体防御機能障害のある患者に必要な患者の看護を学ぶ 2. 性・生殖機能障害のある患者に必要な看護を学ぶ				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	アレルギー疾患患者の特徴と看護の役割	
2	免疫のしくみと疾患との関係	
3	アレルギーの診断・検査と治療	
4	アレルギーの症状とアレルギーの患者の看護	
5	膠原病患者の特徴と看護の役割	
6	自己免疫疾患の病態・症状と疾患の理解	
7	膠原病の検査と治療	
8	膠原病の疾患をもつ患者の検査・治療	
9	膠原病の疾患をもつ患者の看護	
10	感染症の患者の特徴と検査・治療	
11	感染症の患者の看護	
12	女性生殖器機能障害の特徴と検査、治療	
13	男性生殖器機能障害(前立腺がん、精巣腫瘍を含む)の特徴と検査、治療	
14	性・生殖機能障害のある対象の看護	
15	ボディイメージの変化を受容するための看護	
テキスト 参考書等	系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護総論 臨床看護総論 医学書院 系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器 ⑨女性生殖器 医学書院 系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 感染症 医学書院	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、レポート、筆記試験
------------------------------	----------------

授業科目	成人看護学Ⅱ－5			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	橋本 恵子	取得資格	看護師、保健師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	がん患者の看護、がん患者の社会参加への支援、緩和ケア、エンド・オブ・ライフケア、演習（終末期にある患者、緩和ケアを必要とする患者・家族への看護、終末期にある患者、緩和ケアを必要とする患者・家族への看護）				
到達目標	1. がんに患者に及ぼす苦痛や苦悩を理解し、全人的ケアを実践するための知識・技術を習得する。 2. がん患者の社会参加への支援とがんサバイバーシップケアについて理解できる。 3. 終末期にある患者と緩和ケアを必要とする患者・家族に対しての看護について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	転移・浸潤に伴う身体的苦痛、身体症状に伴う活動制限	講義
2	がんの診断や再発・転移による心理的苦痛	
3	社会的・スピリチュアルな苦痛	
4	がん患者の社会参加への支援①就労継続と環境調整	
5	がん患者の社会参加への支援②社会参加を促す支援	
6	がん患者の社会参加への支援③がんサバイバーシップケア・ピアサポート	
7	がん患者の家族の特徴と看護 家族が直面する課題	
8	がん患者と家族への看護 演習	演習
9	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	講義
10	エンド・オブ・ライフケア① 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント	
11	エンド・オブ・ライフケア② 治療中止や療養の場の移行に対する意思決定支援	
12	エンド・オブ・ライフケア③ 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア アドバンス・ケア・プランニング（ACP） 家族への支援	
13	終末期にある患者、緩和ケアを必要とする患者・家族への看護 演習①	演習
14	臨死期の看護 身体的・精神的特徴とケア グリーフと遺族のケア	講義
15	終末期にある患者、緩和ケアを必要とする患者・家族への看護 演習②	演習
テキスト 参考書等	系統看護講座がん看護学 医学書院 系統看護講座緩和ケア 医学書院	

	成人看護技術がん・ターミナルケア メヂカルフレンド社 視聴覚教材
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験 出席認定 レポート 主要な身体症状のマネジメントとケア

授業科目	老年看護学Ⅰ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	椎葉さより	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	老年看護と他の領域、社会保障制度との関連を理解する。高齢者の身体的、心理社会的特徴と個々の生きてきた生活史、社会状況から高齢者を理解することを学び、高齢者の生き方を理解する。				
到達目標	1. 高齢者の身体面的・心理精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 加齢変化と疾患や生活機能変化を理解し生活への影響について理解できる。 3. 高齢者の生活史を社会変化との関連で理解できる。 4. 高齢者の健康づくりについて理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	高齢者の理解①高齢者とは、高齢者の特徴と理解	講義
2	高齢者の理解②高齢者にとっての健康、QOL	
3	高齢者の理解③加齢に伴う変化	
4	高齢者をとりまく社会①高齢者の生活と家族、生活する場	
5	高齢者をとりまく社会②高齢者を支える制度、社会資源、地域包括ケア	
6	長期療養施設・在宅の看護（介護保険施設、地域密着サービス、デイケア、在宅）	
7	高齢者看護の基本①高齢者看護の特性、処理論	
8	高齢者看護の基本①高齢者看護における倫理	
9	高齢者看護の基本②高齢者に対するアセスメント	
10	高齢者看護の基本③高齢者によくみられる疾患	
11	高齢者看護の基本④高齢者看護におけるチームアプローチ、リスクマネジメント	
12	高齢者のヘルスプロモーション（健康づくり、生活習慣病予防、認知症予防）	
13	生活を支える看護①コミュニケーション、食生活、住まい	
14	生活を支える看護②セクシュアリティ、経済状況、社会参加	
15	高齢者理解のための演習：高齢者疑似体験	演習
テキスト 参考書等	ナースングラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版 厚生指針 国民衛生の動向 厚生労働統計協会	

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート 筆記試験
------------------------------	----------------

授業科目	老年看護学Ⅱ－１			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	椎葉さより	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ ☐ 無	経験年数	6
授業内容	加齢に伴う特徴を理解し、健康障害を示す病態、症状や徴候を理解する。また、高齢者のアセスメントと生活機能を整える看護について知識・技術を習得する。				
到達目標	１・加齢にともなう心身機能の変化、老年期に特徴的な疾病や病態を説明できる。 ２．健康障害の状態にある高齢者のアセスメント方法、看護技術を理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	高齢者の生活を支える看護①食生活を支える看護、食生活の変化に対するアセスメント	講義
2	高齢者の生活を支える看護①摂食嚥下障害アセスメント、食事に対するケア	
3	高齢者の生活を支える看護②尿失禁、便秘・下痢がある人のアセスメント	
4	高齢者の生活を支える看護②演習：オムツ交換、陰部洗浄	
5	高齢者の生活を支える看護③清潔・衣生活に関するアセスメント	
6	高齢者の生活を支える看護③痒み関するアセスメントとケア	
7	高齢者の生活を支える看護③感染症予防のアセスメントとケア	
8	高齢者の生活を支える看護④活動と休息のアセスメント	
9	高齢者の生活を支える看護④視覚、聴覚障害のアセスメントとケア	
10	高齢者の生活を支える看護④ADL、歩行、移動のアセスメントとケア	
11	高齢者の生活を支える看護⑤生活リズムのアセスメントとケア	
12	高齢者の生活を支える看護⑤演習：アクティビティケア	演習
13	高齢者の生活を支える看護⑥コミュニケーションのアセスメントとケア	講義
14	高齢者の生活を支える看護⑦呼吸・循環機能のアセスメントとケア	
15	終末期ケア、看取りの看護、家族ケア	

テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版
--------------	-----------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート 筆記試験
------------------------------	----------------

授業科目	老年看護学Ⅱ－2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	日高 里美	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	15 年
授業内容	加齢に伴う特徴を理解し、健康障害を示す病態、症状や徴候を理解する。また、高齢者のアセスメントと生活機能を整える看護について知識・技術を習得する。				
到達目標	1. 高齢者に起こりやすい症候や問題とその治療・看護について知識を習得する。 2. 加齢に伴う身体的・精神的問題によって、日常生活に障害をきたした高齢者の看護について知識・技術を習得する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	高齢者の生活を支える看護①食生活を支える看護②排泄を支える看護	講義
2	高齢者の生活を支える看護③清潔・衣生活を支える看護	
3	高齢者の生活を支える看護④活動と休息を支える看護	
4	高齢者の生活を支える看護⑤歩行・移動を支える看護	
5	高齢者の生活を支える看護⑥呼吸・循環機能を支える看護	
6	その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護	
7	演習：症例から高齢者の健康問題を改善するための看護計画を立案する	
8	認知機能障害のある高齢者のアセスメントと看護	
9	治療を受ける高齢者の看護①認知症の理解	
10	治療を受ける高齢者の看護②せん妄・うつ病の理解	
11	治療を受ける高齢者の看護③薬物療法④診断・検査⑤家族への看護	
12	終末期の看護①終末期看護の理解	
13	終末期の看護②認知症高齢者の終末期ケア	
14	終末期の看護③看取りを終えた家族・スタッフへの看護	
15	演習：症例から高齢者の健康問題を改善するための看護計画を立案する	演習

テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学①② メディカ出版
--------------	------------------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 レポート 筆記試験
------------------------------	----------------

授業科目	老年看護学Ⅱ－3			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	椎葉さより	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
授業内容	高齢者の生活支援についての理解、高齢者の健康状態のアセスメント 高齢者の暮らしを支える専門職の構成と役割、専門職の立場からのチーム医療・多職種連携の実際について学ぶ。				
到達目標	1. 高齢者の暮らしを理解し生活支援に向けた専門職の構成と役割が理解できる。 2. チーム医療に関する基本的考え方、多職種との連携協働と看護の役割について学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	高齢者の生活支援についての理解 ・健康維持・増進、予防対策の意義、目標、健康状態のアセスメント視点 ・国際生活機能分類（ICF）の概念、しくみ、活用方法の理解	講義
2	高齢者の健康状態のアセスメント 国際生活機能分類（ICF）：事例を用いての講義①GW	演習
3	高齢者の健康状態のアセスメント 国際生活機能分類（ICF）：事例を用いての講義②GW	
4	高齢者の暮らしを支える専門職の構成と役割 ・チーム医療・多職種連携とは何か。チーム医療・多職種連携が求められる背景と重要性。連携・協議するための方法。チーム医療・多職種連携における看護師の役割。	講義
5	専門職の立場からのチーム医療・多職種連携の実際① 事例を用いての講義、GW、ワークシート	演習
6	多職種連携における看護の役割と実際②GW、ワークシート 「患者・利用者の生活の質を高めるチーム医療と多職種連携のあり方と看護職の役割について」	
7	多職種連携における看護の役割と実際③GW、ワークシート 「患者・利用者の生活の質を高めるチーム医療と多職種連携のあり方と看護職の役割について」	
8	グループワークの発表、プレゼンテーション、まとめ、リフレクションシート	

テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実際 老年看護学①② メディカ出版 資料、事例など事前に配布する。
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	グループワーク状況、ワークシート(事前学習課題含)、リフレクションシート 1～4回の講義での確認テスト PT学科と協働学習
------------------------------	---

授業科目	小児看護学 I			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	平野 靖子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	12
授業内容	・小児看護の対象理解 ・小児看護の役割 ・小児保健 ・子どもの成長発達 ・子どもの栄養 ・子どもと家族 ・子どもと家族を取り巻く社会 ・小児各期の特徴（新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期）				
到達目標	小児看護の理念、家族と子どもの健康を保持増進するための看護の役割を知る。 1) 小児各期における発達段階の特徴、子どもと家族を取り巻く環境を理解できる。 2) 小児看護における看護の役割について理解できる。 3) 子どもを取り巻く社会と小児保健の動向、諸問題を理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	小児看護の対象 小児看護における倫理・倫理的課題と看護 子どもの権利	講義
2	小児看護の役割 小児看護の変遷 小児看護の課題	
3	小児保健 小児と家族の諸統計	
4	子どもの成長・発達（成長・発達とは 成長・発達の進み方 影響因子）	
5	子どもの成長・発達（成長の評価 発達の評価）	
6	子どもの栄養（子どもにとっての栄養の意義 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護）	
7	子どもの栄養（演習：離乳食体験） 食育	
8	小児各期の特徴（新生児：形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、看護）	
9	小児各期の特徴（乳児：形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、看護）	
10	小児各期の特徴（幼児：形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、看護）	
11	小児各期の特徴（学童：形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、看護）	
12	小児各期の特徴（学童思春期形態的・身体生理の特徴、各機能の発達、看護）	
13	家族の特徴とアセスメント（現代家族の特徴と家族の看護）	
14	子どもと家族を取り巻く社会 小児をめぐる法律と施策	
15	子どもと家族を取り巻く社会（演習：新聞記事を用いたグループワーク発表）	演習

テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向、小児看護学 筒井真優美（日総研）、新聞記事、
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、課題レポート、筆記試験
------------------------------	------------------

授業科目	小児看護学Ⅱ－1			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	平野 靖子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	12
授業内容	プレパレーションとディストラクション、子どもにおける疾病の経過と看護、子どものアセスメントに必要な技術、演習(バイタルサイン測定・身体計測)検査・処置を受ける子どもの看護				
到達目標	1. 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護について理解できる。 2. 子どもの成長・発達及び健康障害のある子どもと家族の特徴と必要な看護について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護：病気に対する子どもの理解と説明 プレパレーションとディストラクションの実際	講義
2	子どもにおける疾病の経過と看護：慢性期にある子どもと家族の看護 急性期にある子どもと家族の看護	
3	子どもにおける疾病の経過と看護：周手術期にある子どもと家族の看護 終末期にある子どもと家族の看護	
4	子どものアセスメント：アセスメントに必要な技術(バイタルサイン測定・身体計測)、身体的アセスメント	
5	子どものアセスメント：アセスメントに必要な技術 演習(バイタルサイン測定・身体計測)	
6	検査・処置を受ける子どもの看護： 子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際、薬物動態と薬用量	
7	検査・処置を受ける子どもの看護： 与薬、輸液管理、抑制、検体採取、電法、清潔、経管栄養、おむつ交換、呼吸症状の緩和(吸引、酸素療法)救命処置	
8	感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、予防接種	
9		
10		

テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論①（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学各論②（医学書院） 写真でわかる小児看護技術-小児看護に必要な臨床技術を中心に-インターメディカ
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、課題レポート、筆記試験

授業科目	小児看護学Ⅱ－2			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	日高 里美	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	15
授業内容	主な疾患と看護、症状を示す子どもの看護、事例を用いた子どもの看護 等				
到達目標	1. 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護について理解できる。 2. 子どもの成長・発達及び各疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解できる。 3. 特別な状況にある子どもと家族への看護について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	健康問題とその治療：先天異常、低出生体重児の疾患、 先天代謝異常症、糖尿病、下垂体・甲状腺疾患	講義
2	健康問題とその治療：気管支喘息、膠原病、上気道の疾患、気管支・ 肺疾患	
3	健康問題とその治療：先天性心疾患、川崎病、乳幼児下痢症、急性胃 腸炎、 鎖肛、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病	
4	健康問題とその治療：急性リンパ性白血病、ウイルス腫瘍、神経芽 腫、 ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、先天性股関節脱臼 けいれん性疾患	
5	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護：入院中の子どもと家族の 看護 在宅療養中の子どもと家族の看護	
6	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護：外来における子どもと家 族の看護	
7	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護：災害時の子どもと家族の 看護	
8	障害のある子どもと家族の看護	
9	子どもの虐待と看護	
10	症状を示す子どもの看護(事例活用：発熱・けいれん・呼吸困難)	演 習 (GW)
11	症状を示す子どもの看護(事例活用：嘔吐・下痢・脱水・アレルギー)	
12	症状を示す子どもの看護(事例活用：痛み・出血・貧血・発疹)	
13	小児悪性疾患と看護(事例活用：化学療法・放射線療法・骨髄移植の看 護)	講義
14	小児慢性疾患と看護(事例活用：小児の自己管理指導・薬物療法・食事 療法)	
15	子どもの事故・外傷と看護	

テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論①(医学書院) 系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学各論②(医学書院)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、課題レポート、筆記試験

授業科目	小児看護学Ⅲ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単位数	1
担当講師	平野 靖子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	・小児看護における看護過程 ・小児看護における事例の看護過程（気管支喘息、ネフローゼ症候群） ・看護過程関連技術の演習の実際				
到達目標	健康障害をもった子どもと家族の健康問題をアセスメントし、疾病の回復、健康の保持増進、成長・発達を促すための援助がわかる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	小児看護における看護過程	講義
2	子どもの成長・発達、気管支喘息の基礎知識、各自の自己学習のまとめを活用	
3	事例展開：気管支喘息（幼児期）情報の整理・分析：発達段階、疾患と病態生理	演習
4	事例展開：気管支喘息（幼児期）情報の整理・分析：健康の段階、子どもと家族への指導	
5	事例展開：気管支喘息（幼児期）情報の整理・分析、問題点統合、事例の関連図	
6	事例展開：気管支喘息（幼児期）看護計画	
7	事例展開：気管支喘息（幼児期）看護計画、各自が作成した退院指導パンフレット発表	
8	事例展開：ネフローゼ症候群、基礎知識、各自の自己学習のまとめを活用	
9	事例展開：ネフローゼ症候群、情報の整理・分析：発達段階、疾患と病態生理	
10	事例展開：ネフローゼ症候群、情報の整理・分析：健康の段階、子どもと家族への指導	
11	事例展開：ネフローゼ症候群、情報の整理・分析、問題点統合、事例の関連図	
12	事例展開：ネフローゼ症候群、看護計画	
13	事例展開：ネフローゼ症候群、指導のパンフレット作成・発表	
14	看護過程関連技術の演習：事例を用いたバイタルサイン測定、清拭・陰部洗浄	
15	看護過程関連技術の演習：事例を用いたおむつ交換、寝衣交換	

テキスト 参考書等	系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論小児看護学① 系統看護学講座専門分野Ⅱ小児臨床看護各論②（医学書院） 写真で見る小児の看護技術、小児看護学 筒井真優美（日総研）
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、課題レポート、パンフレット、筆記試験
------------------------------	-------------------------

授業科目	母性看護学 I			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	前山 彩	取得資格	助産師・保健師・看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
授業内容	母性看護の概念及び人間の性と生殖について理解し、対象である女性の母性について身体的特性、心理・社会的特性を全体論的に捉え、ライフサイクル各期の健康問題と看護について考える。				
到達目標	1. 母性看護概念・理論、と母子の現代の社会状況を理解できる。 2. 性の概念と性と生殖の機能とメカニズムについて理解できる。 3. 女性のライフサイクル各期に必要な看護について理解できる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	母性看護の対象である母性・父性、母子関係と家族発達	講義 討議 演習
2	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション	
3	母性看護のあり方と倫理、母性看護における安全・事故予防	
4	母子保健の動向、関連する施策や組織と法律	
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	
6	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、母性の発達・成熟・継承	
7	妊娠と胎児の性分化と性分化疾患	
8	生命と倫理、人工妊娠中絶の現況・倫理的・法的・社会的課題	
9	出生前診断・生殖補助医療の現況、倫理的・法的・社会的課題、看護	
10	ライフステージ各期の看護①ライフサイクルにおける女性の健康と看護	
11	ライフステージ各期の看護②思春期・成熟期・更年期・老年期の健康と看護	
12	リプロダクティブヘルスケア①家族計画と性感染症とその予防	
13	リプロダクティブヘルスケア②人工妊娠中絶、HIV に感染した女性に対する看護	
14	リプロダクティブヘルスケア③喫煙と女性の健康、性暴力を受けた女性の看護	
15	リプロダクティブヘルスケア④児童虐待と看護、国際化社会と看護	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 母性看護学 I 医学書院 国民衛生の動向 模型、VTR 新生児モデル人形等
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験 出席状況 レポート提出状況、グループワークの参加状況等
------------------------------	----------------------------------

授業科目	母性看護学Ⅱ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	① 楠元 和美 ② 前山 彩	取得資格	① 医師 ② 助産師・保健師・看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	① 26 ② 13
授業内容	妊娠、分娩、産褥および新生児の各期の生理的变化や経過および看護				
到達目標	妊娠、分娩、産褥および新生児の各期の生理的变化や経過および看護について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	妊娠の経過と胎児の発育、妊娠の健康診査	講義
2	妊婦の心理と不快症状	
3	妊婦の日常生活とセルフケア、出産・育児の準備	
4	分娩の経過と胎児の健康状態	
5	産婦の基本的ニーズと看護	
6	産痛の緩和	演習
7	産婦と家族の心理	講義
8	退行性変化と進行性変化	
9	褥婦の心理と日常生活のセルフケア	
10	母乳育児への支援	
11	親役割への支援	
12	新生児の生理・栄養・哺育環境	
13	新生児の看護	演習
14	新生児の保健指導	
15	新生児の育児に関する退院指導	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 母性看護学1、2 医学書院 病気がみえる VOL⑩ MEDIC MEDIA 模型、VTR 妊婦および新生児モデル人形等
--------------	---

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定・定期試験・レポート提出状況（事前課題等）
------------------------------	---------------------------

授業科目	母性看護学Ⅲ			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	① 楠元 和美 ② 前山 彩	取得資格	① 医師 ②助産師・保健師・看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	①26 ②13
授業内容	妊娠、分娩、産褥各期における異常とその看護				
到達目標	妊娠、分娩、産褥各期における異常とその看護について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	流産・早産、感染症、常位胎盤早期剥離前置胎盤、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、出生前診断	講義
2	前期破水、帝王切開術、産科出血、胎児機能不全	
3	肺塞栓、子宮復古不全、産褥熱、帝王切開術後	
4	新生児の健康逸脱、先天異常、障害をもつ新生児	
5	妊娠高血圧症候群の妊婦の看護、切迫流早産の妊婦の看護 妊娠悪阻の妊婦の看護、妊娠糖尿病妊婦の看護 前期破水が生じた産婦の看護、分娩遷延のリスクのある産婦の看護、 弛緩出血を生じた産婦の看護	
6	子宮復古不全の産婦の看護、帝王切開術後の看護、	
7	乳腺炎の看護、産後うつと看護	
8	新生児仮死の看護、低出生体重児の看護、高ビリルビン血症の新生児の看護	

テキスト 参考書等	系統看護学講座 母性看護学1、2 医学書院 模型
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定・定期試験・レポート提出状況（事前課題等）

授業科目	母性看護学Ⅳ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	36
授業内容	周産期における基礎看護学技術の習得、事例によるウェルネスの看護過程の展開				
到達目標	周産期における基礎看護学技術の習得および事例による看護過程の展開を通して母性看護に必要な能力を養う。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	妊婦健診時の諸計測	講義
2	妊婦体験	演習
3	妊娠中の乳房管理、産褥期の乳房管理	講義
4	安楽な姿勢（演習）、妊産婦体操（演習）	演習
5	呼吸法（演習）、産褥体操（演習）	
6	沐浴、おむつ交換、バイタルサイン測定	講義
7	諸計測（演習）①沐浴実技試験（演習）	演習
8	情報収集	講義
9	アセスメント	
10	問題点と優先順位	
11	看護目標	
12	計画立案	
13	指導案作成	
14	模擬媒体（パンフレット）作成	演習
15	実習記録、ウェルネス的思考方法	講義

テキスト 参考書等	系統看護学講座 母性看護1、2 指導技術および看護過程に関する参考図書 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版 妊婦モデル・新生児モデル・ファントム・乳房モデル・メジャー・トラウベ・分娩監視装置 その他基礎看護技術用品等DVD
成績評価及び 単位認定の方法	出席認定 演習・グループワークへの取り組み姿勢 実技試験（沐浴）

履修上の留意点	実技記録(妊婦諸計測演習後記録・新生児沐浴演習後記録・指導技術後演習後記録・看護過程演習後記録)
---------	--

授業科目	精神看護学Ⅰ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	19
授業内容	精神看護の目的・機能から、看護師に求められる倫理的配慮を学ぶ。 精神障害をもつ人の地域生活への支援の実践を学ぶ。				
到達目標	精神医療の歴史や精神に障害をもつ人に対する歴史的背景から精神の健康に対する考え方の変遷を学び、精神看護の目的・機能及び看護師に必要な倫理的態度について理解する。2. 精神保健福祉活動の実践を知り、継続看護の重要性及び保健福祉チームの一員として看護師の果たす役割を学ぶ。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	精神保健の目的、精神保健医療、背景、心を病むということは（ワーク）	講義
2	精神病の概念の変遷、精神病患者の処遇と歴史	
3	近代精神医療・日本の精神医療と問題	
4	精神看護とは、精神看護の役割と専門性	
5	精神保健福祉法	
6	精神障害者の理解、家族、看護師に求められる倫理的配慮	
7	精神の健康、精神障害者「患者－看護師」関係構築	
8	精神障害をもつ人とのコミュニケーション、振り返り	
9	精神看護の役割、治療的コミュニケーション、セルフケアへの援助、視聴覚教材オレムセルフケア理論	
10	治療的環境、事故防止・安全管理、家族の特徴・援助、ICT視聴、多職種連携	
11	演習：精神障害者事例を考える（ワークシート）	演習
12	精神保健医療施策と方向性、司法精神医学と看護	講義
13	災害時地域精神医療活動、初期対応、継続看護	
14	精神障害をもつ人の地域生活への支援の実践	
15	精神障害をもつ人の地域生活への支援の実践	

テキスト 参考書等	教科書：新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 参考書：国民衛生の動向
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・レポート・出席認定

授業科目	精神看護学Ⅱ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	1	単位数	1
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	19
授業内容	精神の健康な発達とそれに影響を与える要因を学び、現代社会に生きる人々の精神の健康を保持・増進するための必要な知識を理解する。また、これらの知識を基に自己の精神保健について考える。				
到達目標	1. 精神の健康及び精神の健康を支える要因を理解する。 2. 精神障害をもつ人々や家族を当事者の持つ力あるいはレジリエンスといったポジティブな可能性に注目して援助することが理解できる。 3. 現代社会における精神保健問題及びその対策の方向性を知る。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	精神機能と精神的健康の捉え方	講義
2	成長と精神の発達（エリクソン ボウルヴィ）	
3	成長と精神の発達（マズロー ピアジェ）	
4	家族と精神の健康	
5	学校と精神の健康	
6	職場・仕事と精神の健康	
7	地域における生活と精神の健康	
8	危機とは ストレスとコーピング	
9	適応と不適応 セルフマネジメント	
10	社会構造の変化と社会病理 DV PTSD	
11	ひきこもり ハラスメント 自殺)	演習
12	不登校 いじめ 不登校 自傷行為 虐待	講義
13	依存症 性同一性障害	
14	身体疾患と看護 先端医療と看護	
15	リエゾン精神看護	

テキスト 参考書等	・新体系看護学全書 精神看護学①、精神看護学② メヂカルフレンド社 ・オープンセサミシリーズ看護学3 東京アカデミー編
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席 筆記試験

授業科目	精神看護学Ⅲ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	船橋秀樹 他	取得資格	医師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	19
授業内容	精神症状、主な精神疾患、主な治療法、精神疾患を持つ人への看護等				
到達目標	精神症状や状態によってもたらされる生活の変化の把握と治療・看護について理解する。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	精神症状の分類、状態像	講義
2	主な精神疾患・障害の特徴①統合失調症	
3	主な精神疾患・障害の特徴②気分障害	
4	主な精神疾患・障害の特徴④人格障害③神経症性障害	
5	主な精神疾患・障害の特徴⑤物質関連障害及び嗜好性障害⑥神経認知障害⑦てんかん	
6	主な治療法 ①薬物療法	
7	主な治療法 ②精神療法	
8	精神障害をもつ人への看護 ①精神科看護における安全管理	
9	②病棟環境の整備 ③自殺・自殺企図・自傷行為	
10	④攻撃的行動・暴力・暴力防止プログラム ⑤離院	
11	⑥統合失調症をもつ人への看護	
12	⑦妄想性障害をもつ人への看護	
13	⑧双極性障害をもつ人への看護	
14	⑨うつ病をもつ人への看護	
15	⑩アルコール依存症をもつ人への看護	
	⑪認知症をもつ人への看護	

テキスト 参考書等	教科書：新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験、出席認定
------------------------------	-----------

授業科目	精神看護学Ⅳ			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	19
授業内容	精神障害のある対象及びその家族に対して、看護過程を展開するために必要な基礎的な技術を習得する。				
到達目標	1. 統合失調症患者の経過別看護を理解する。 2. 慢性統合失調症患者の看護過程が展開できる。 3. 患者-学生関係を構築する技術を身につける。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	統合失調症患者の経過別看護	講義
2	薬物療法、リハビリテーション療法における看護	
3	精神看護における看護過程ガイド	
4	演習 事例展開「統合失調症患者の情報分析、看護上の問題の抽出」	演習
5	演習 事例展開「統合失調症患者の看護計画立案」	
6	看護理論 ペプロウの「看護における人間関係」	講義
7	演習 ロールプレイ「事例：抑うつ状態の患者」	演習
8	患者-学生間でおこりうる問題とその解決	講義
9		
10		

テキスト 参考書等	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学② メヂカルフレンド社 ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ オープンセサミシリーズ：看護学③ 東京アカデミー編 NANDA-1 看護診断 定義と分類 医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・レポート・出席認定

授業科目	看護管理			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	橋本 恵子 他	取得資格	看護師 保健師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	看護管理・マネジメント、看護を取り巻く法律制度、組織、多重課題の対処とケア計画 看護管理と安全管理体制、国際看護				
到達目標	・看護の機能と役割を明確にし、福祉・医療の中の看護職の役割を理解する。 ・より良い看護サービス実践のための看護管理の重要性を理解する。 ・看護の国際協力の理解を深める。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	看護管理・マネジメントとは	講義
2	看護管理者に求められるもの 看護師すべてに求められるもの	
3	新人看護師に求められるもの	
4	看護を取りまく法律制度 組織	
5	看護体制とチームワーク 他職種との連携	
6	多重課題の対処とケア計画	
7	看護管理と安全管理体制	
8	看護管理の実践	
9	看護管理の評価	
10	看護職と生涯学習 キャリアアップ	
11	世界について知ることから始めようーMDGs と健康	
12	国際協力の仕組み プライマリーヘルスケア	
13	感染症とスティグマ 性の多様性	
14	紛争と難民 災害と看護 国際移動する看護師	
15	健康格差と世界の貧困 国際的活動の多様な道 情報リテラシー	

テキスト 参考書等	・看護管理看護研究看護制度：メジカルフレンド社 ・看護の統合と実践①マネジメント・医療安全：メジカルフレンド社 ・系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ看護学概論：医学書院 ・知って考えて実践する国際看護第2版：医学書院
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 レポート提出 出席認定
------------------------------	------------------

授業科目	災害看護			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	3	単位数	1
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	36
授業内容	過去の大規模災害における看護活動の経験知を基盤に、災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害サイクル各期や活動現場に応じた被災者の健康や生活のニーズに対する看護の果たす役割について学ぶ。				
到達目標	1. 災害及び災害看護に関する基本的知識を理解する。 2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害時に看護が果たすべき役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。 4. 災害時における事例をもとに倫理的判断が述べられる。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	災害及び災害看護に関する基礎的知識（歴史・定義・種類・疾病構造・サイクル・関連死・要援護者）	
2	災害発生時の社会の対応やしきみ（制度・情報と伝達のしきみ・支援体制・個人の備え・ボランティア）	
3	災害時の被災者および援助者の心理（被災者・援助者のストレスと心のケア・心のトリアージ）	
4	災害各期における看護活動（災害サイクル各期の看護活動・在宅・避難所・仮設住宅・公営住宅での看護）	
5	災害時に必要な技術（トリアージ・治療・搬送）	
6	病院における災害看護（災害への備え・初動体制・災害訓練）	
7	災害看護における倫理・教育・理論（倫理原則・教育《期待される能力援助者の基本姿勢》・災害看護理論）	
8	対象別にみた災害看護の実践（地域・母性・小児・高齢者・精神・慢性期・感染）	
9		
10		
テキスト 参考書等	教科書：災害看護（南江堂） 参考図書：災害現場でのトリアージと応急処置（日本看護協会出版会）	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、レポート、筆記試験	

授業科目	統合看護技術			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	橋本 恵子	取得資格	看護師 保健師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	事例の情報のアセスメント・計画（クリニカルパス）ケア手順を作成 講義・臨地実習で学んだ知識・技術を統合し、模擬患者の援助を安全に実践				
到達目標	1. 事例の情報のアセスメント・計画（クリニカルパス）ケア手順を作成することができる 2. 事例の看護上の問題と対策を明確にし、発表できる 3. 講義・臨地実習で学んだ知識・技術を統合し、模擬患者の援助を安全に実践できる 4. ワークを通して自己の課題を明確にする。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	事例の看護過程の展開に必要な知識のまとめ①（病態生理・症状・検査）	講義
2	事例の看護過程の展開に必要な知識のまとめ②（治療・手術後の経過 看護）	
3	事例の看護過程の展開①（アセスメント 関連図）	
4	事例の看護過程の展開②看護の方法性（全体カンファレンス）	
5	事例の看護過程の展開③看護計画作成（クリティカルパス作成）	
6	事例の看護過程の展開④看護計画発表	
7	事例の看護に必要な看護技術の抽出	
8	事例の看護に必要な看護技術の個別性の検討	
9	事例の術後１日目に必要な看護技術の手順（目的・必要物品・方法・留意点）作成（個人）	
10	事例の術後１日目に必要な看護技術の手順作成（グループ）	
11	事例の術後１日目に必要な看護技術の手順のプレゼンテーション	
12	看護技術手順の見直し（追加修正）	
13	看護技術（術後１日目の観察・離床の援助）の演習①	演習
14	看護技術（術後１日目の観察・離床の援助）の演習②	
15	看護技術の実技試験（OSCE）	

テキスト 参考書等	事例の看護過程に必要な既習の書籍・資料
--------------	---------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験(60%)レポート提出とプレゼンテーション(10%) OSCE(実技試験)(30%) 出席認定
------------------------------	--

授業科目	医療安全			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	平野 靖子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	12
授業内容	医療安全の基本的な考え方、危険の種類別にみた医療安全対策、実際の事故事例から医療事故防止、自己のモニタリング力等				
到達目標	1. 医療安全の基本的な考え方を習得する。 2. 危険の種類別にみた医療安全対策が理解できる。 3. 実際の事故事例から医療事故防止の知識を身につける。 4. 医療事故防止の知識を豊富にし、自己のモニタリング力をつける。				

授業計画

回数	授 業 内 容	方法
1	医療安全の基礎知識(医療安全を学ぶ意義と動向、事例を用いた医療安全の考え方)	講義
2	医療安全の基礎知識(医療安全と看護倫理対策、事例を用いた医療安全の考え方)	
3	医療安全の基礎知識(用語の定義と具体例の GW まとめ発表、ヒューマンエラーとその対策)	
4	危険の種類による医療安全対策(ヒューマンエラーとその対策、事故発生のメカニズム)	
5	危険の種類による医療安全対策(誤薬と誤嚥防止対策、事例を用いて検討)	演習
6	危険の種類による医療安全対策(患者誤認と防止対策、事例を用いて GW まとめ発表)	
7	危険の種類による医療安全対策(針刺し事故と防止対策、転倒転落と防止策、事例で検討)	講義
8	看護業務上の危険と防止策(医療機器、用具トラブル防止対策)	
9	看護業務上の危険と防止策(感染防止、医療品への曝露防止対策)	
10	看護業務上の危険と防止策(労働形態、作業に伴う防止対策)	
11	演習(ヒヤリハット事例及び事故事例を用いた事例の分・対策)	演習
12	演習(ヒヤリハット事例及び事故事例を用いた事例の分析・対策)	
13	演習(ヒヤリハット事例及び事故事例を用いた事例の分析・対策、まとめ発表)	
14	演習(危険予知訓練、事例を用いての KYT シート)	
15	演習(危険予知訓練、事例を用いての KYT シート、まとめ発表)	

テキスト 参考書等	医療安全 看護の統合と実践(メディカ出版) 危険予知トレーニング(メディカ出版) 医療安全のキホン(秀和システム) 防げたはずのエラーが起こる瞬間(メディカ出版) 医療安全(医学書院)
--------------	--

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席状況、課題レポート、筆記試験
------------------------------	------------------

授業科目	基礎看護学実習 1			時間数	48
学 科	看護学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	鍛冶田 理恵 他	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
目的	入院している対象の看護の場を知る 入院生活を送っている対象を理解し、生活援助技術を安全・安楽に援助できる能力を養う 患者と接し、自己のコミュニケーションのあり方を明らかにする				
到達目標	病院施設の機能や保健医療チームの職種、役割を知ることができる 対象の療養環境を知ることができる 対象を尊重した態度や言葉遣いでコミュニケーションをとることができる 対象の健康状態に応じた看護援助を知ることができる 対象に適した日常生活援助技術ができる 看護学生として責任ある行動がとれる				

授業計画

時間	授 業 内 容	
8	<見学実習> 1. 病院の構造、配置を知る 2. 対象の療養生活を知る 3. 対象の看護の機能・目的を知る	1) 病院の構造、機能について理解する（オリエンテーション、病院、病棟、病室見学） 2) 病室環境の観測・測定・病室の空間・構造 ベッドの構造、温度、湿度、音、光、臭い 3) 看護師に同行して援助を見学する。 4) 看護師の援助を見学し留意点・看護の方向性について説明を受ける
40	<基礎看護学実習 I> 1. 対象とコミュニケーションを図ることができる 2. 対象の入院生活についての思いを知ることができる 3. 対象の健康状態に応じた看護援助を知ることができる 4. 援助計画を立案し、日常生活の援助技術ができる 5. 看護学生として自覚と責任ある行動がとれる	1) コミュニケーションの基本 （自己紹介、身だしなみ、表情、視線、言葉遣い、姿勢、距離など） 2) 効果的なコミュニケーションを意図的に使う（傾聴、環境、受容的態度、共感的理解、など）対象の疾患や生活（身体）、家族や仕事（社会）等への思いの情報をカルテ、コミュニケーションから収集する 3) プロセスレコードを用いて、自己のコミュニケーションについて振り返る 4) 看護師に同行してどのように援助されているか見学する。収集した情報から日常生活について援助が必要な部分を見出す。 5) 生活行動の自立度や治療上の日常生活の制限等から実施方法を立案する。 6) 声かけや表情などを観察しながら、安全・安楽な体位、保温、振動、丁寧な動作などに注意し実施する。 7) 患者の権利擁護、看護者の倫理綱領、健康管理、時間・期限の遵守グループ内での協力、協調性必要な報告、連絡、相談
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------

授業科目	基礎看護学実習 2			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	鍛冶田 理恵 他	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	6
目的	日常生活援助を通して、対象を総合的に理解し、援助を必要とする事柄を判断し、計画的に看護を行う能力を養う。 検査・治療・処置を受ける患者の援助が分かる				
到達目標	疾病や障害により入院生活を余儀なくされている患者を理解する 看護過程の基礎を理解することができる 実習を通して自らの学習課題を見出すことができる				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 11 の機能的健康パターンの枠組みにより情報収集できる 2. 対象にとって必要な看護援助を計画・実施、評価することで、よりよい援助が考えられる 3. 体験をフクレションし、自己への気づき患者への影響が考えられる 4. 検査、治療を受ける対象の援助が分かる 5. 実践した看護援助を通して看護についてまとめることができ、自らの課題を明確にすることができる	1) 対象、家族、医療従事者、カルテから情報収集する 2) 11 の機能的健康パターンに基づき情報を整理する 3) 日常生活の程度（安静度、自立度）を知る 4) 障害によっておこる身体の変化を知る 5) 看護問題を抽出し、対象に必要な援助を見出す。 6) なぜその援助をするのか、留意点、留意事項を明確にする。 7) 援助は一度見学した後実施する。 8) 実施前・中・後の対象の反応を確認することができ、指導者へ報告できる。 9) 実践し観察した内容を客観的に記載し、情報を解釈する 10) 対象にもたらされた状態を振り返り、自己の関わりの方向性が考えられる 11) 看護師に同行し、検査、治療処置が正しく安全・安楽に行われるための援助の方法を見学または、指導者とともに実する 12) 対象に応じた日常生活の援助の実践を通して、学んだ看護、課題についてまとめる。
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

授業科目	地域・在宅看護論実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	高山 幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
目的	地域・在宅で療養しながら生活する人と、その家族を1単位と考え、健康問題と生活上の課題を理解し、地域・在宅看護の機能と役割について学ぶ。				
到達目標	地域で療養している対象者とその家族の生活を総合的に理解し、対象者の健康レベルや生活の場に応じた看護について理解できる。社会資源の活用や公的機関における地域・在宅の予防的支援と、継続看護や多職種・多機関との連携・協働の重要性が理解できる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 訪問看護ステーション実習 1) 訪問看護ステーションの概要を理解できる 2) 対象者の病態や健康レベル・生活上の課題を理解できる 3) 生活になじませた看護計画書を作成できる 4) 立案した計画を実施し、内容を評価し、追加修正ができる 5) 様々な地域・在宅看護の提供場を理解し、多職種・多機関連携と協働が理解できる 6) 地域・在宅看護における継続看護の重要性が理解できる 7) 保健・医療・福祉チームの一員として地域・在宅における看護職の果たす役割と責任を考える	訪問看護ステーションにおける規制、利用者の多い疾患、生活状態など 在宅看護を支える法律や制度 職員の訪問に同行する 対象者・家族・看護師・カルテなどからの情報収集、関連図作成、未充足状態の分析、生活上の課題の統合と優先順位の決定 指導者からの指導を参考に計画書を1つ作成する 計画の実施と評価、計画の追加と修正 認知症共同生活介護（グループホーム）・PTの訪問 訪問入浴介護・サービス担当者会議・医療機関との連携の場など 修了反省会 地域・在宅看護の看護過程から学んだこと 訪問看護師に求められる能力、それを身に着けるために何が必要であるか 自己の課題
	2. 保健センター実習 1) 地域・在宅にける保健センターの概要を理解できる 2) 地域・在宅における母子保健事業に参加し、母子支援のための多職種・多機関の連携と協働が理解できる	我が国の人口の動向、地域の人口の動向と特徴、健康日本21にのっとった地域計画、1次予防・2次予防1歳6か月児健診、3歳児健診、育ちのひろば（音楽療法）、カンファレンスへの参加 指導者・学生カンファレンス 本日の学びと地域保健活動や母子支援事業について
	3. 地域包括支援センター実習 1) 地域包括支援センターの役割が理解できる 2) その人らしい生活を支援するために、具体的支援活動を知り、多職種・多機関との連携や協働の重要性が理解できる	総合相談支援事業、高齢者虐待防止、継続的・包括的ケアマネジメント、介護予防居宅サービス計画書作成など 職員の訪問に同行する（オレンジカフェ、健康体操、サロン、居宅への訪問、医療機関での連携、など） 地域ケア会議への参加 学生カンファレンス 本日の学びと地域包括ケアシステムについて
	評価方法	実習評価表に基づく評価

備考	実習要項
----	------

授業科目	成人看護学実習 A			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	大田 智子他	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10
目的	対象の機能や形態の障害を最小にし、残存機能を最大限に生かして社会生活が送れるための援助ができる				
到達目標	・機能障害を一生抱えていかなければならない対象の現在の状況を述べることができる ・対象をとりまく家族の精神的・社会的状況が理解できる ・対象が障害を受容し、残存機能を最大限に活用した ・対象および家族の諸問題を解決するために必要な医療・福祉部門との連携を考慮することができる ・対象の価値観、生活様式を尊重でき、専門職業人を指すものとして自覚ある行動がとれる				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 対象の一日の流れ、病棟の看護活動を知る。 2. 対象との対人関係を大切にしながら必要な情報を収集する。 3. 病棟の看護計画に沿って援助を行う 4. 対象の健康障害による看護問題と看護計画を考える。	1. オリエンテーション 2. 受け持ち対象の情報収集 3. 情報の分析（アセスメント） ・対象の不足低下している体力・知力・意志力を知り、退院後の生活を想定して看護の方向性を考える。 ・看護上の問題を抽出する。 4. 対象に必要な援助の見学・実施 ・病棟の計画に基づいて受け持ち対象の日常生活の援助を看護師とともに行う。 ・対象のフィジカルアセスメント ・環境整備 ・食事・清潔・排泄の援助 ・移乗・移動の援助・活動と休息の援助 1. 看護計画立案 ・対象の反応やカンファレンスでの助言から、より個別性のある計画になるように修正する 2. 対象に必要な援助を安全安楽に実施する ・対象の反応を捉えながら援助を実施する ・対象の個別性を考えた援助を追加修正しながら実施する ・実施した援助の報告をする。 ・治療・処置・診療の介助、機能回復訓練の見学・実施 ・個別指導の見学（食事・薬物療法など） ・多職種ミーティング。退院調整カンファレンスに参加する 3. 対象・家族の社会復帰と健康維持管理に必要な生活指導 1. 看護過程の評価 ・対象の個別性を考えた援助を追加修正しながら実施する ・実施した援助の報告をする。 ・実践した看護計画の結果をまとめ看護過程の評価を行う ・自己の行動を振り返り、今後の課題を明らかにする。
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

授業科目	成人看護学実習 B			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単位数	2
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10
目的	周手術期にある対象について理解し、安全に手術が受けられ、合併症を起こさず順調に回復できるための援助ができる。 対象が安全に検査・処置を受ける援助ができる				
到達目標	・病棟の構造や特殊性、看護活動を知る ・見学や実施を通して術前・術後に必要な看護を知る ・周手術期に必要な看護技術を学ぶ ・周手術期の患者の回復・社会復帰を促すための他部門・他職種との連携の実際を知る。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	【病棟】 1. 病棟の構造や特殊性、看護活動を知る 2. 見学や実施を通して術前・術後に必要な看護を知る 3. 周手術期に必要な看護技術を学ぶ 4. 周手術期の患者の回復・社会復帰を促すための他部門・他職種との連携の実際を知る 【手術室】 1. 手術室の構造や設備・機能を見学を通して知る 2. 手術中に起こりやすい合併症とその予防、看護について理解する 3. 手術室の看護に必要な看護技術を見学を通して学ぶ 4. 器具・物品の取り扱い、滅菌・消毒の方法	1. 病院オリエンテーション（看護部長） 2. 術前の検査・処置・看護の見学 ・術前のインフォームドコンセント 見学 ・手術室入室までの看護の見学と実施 3. 手術当日 ・酸素ボンベ残量計算 実施 ・術後の検査・処置・看護の見学 ・術後の患者の看護の見学・実施 ・術後ベッド作成、病室の準備 ・ドレーン、チューブ類の管理 ・水分出納、血糖測定 実施 ・効果的な呼吸法の実施 ・膀胱留置カテーテル抜去 自尿確認 ・創部・ドレーン挿入部の観察と処置の介助 ・下肢の弾性包帯・ストッキング装着 4. 入院時 ・他職種のオリエンテーション見学 ・退院に向けての他職種の介入見学 ・必要な社会資源の把握 1. 設備・構造、部屋の環境整備・感染管理 2. 手術使用物品・器具の準備 滅菌物の取り扱い 看護師と医師等スタッフとの連携 3. 手術室での患者への配慮 間接介助看護師の看護の実際の見学 直接介助看護師の看護の実際の見学 4. 器具の洗浄・消毒・滅菌の実施と管理（中材）

	を理解する 【集中治療室：HCU】 1. 術後急性期の患者の状態と合併症の観察について理解する 2. 術後合併症出現時や急変時の援助を知る 3. 入室中の患者の回復を促す援助について理解する 【外来】 1. 患者・家族の入院・手術に対する不安や、ボディイメージの変化に対する看護を知る 2. 外来の看護師の役割を見学を通して知る 3. 検査・診察・処置を受ける患者に必要な看護を知る 4. 術後の継続看護の必要性について知る 【ER】 1. 救急で受診した患者に対する検査・診察・治療・看護を理解する 2. 検査・処置等を受ける患者の心身の苦痛の緩和の援助ができる	集中治療室での看護 1. 設備・構造、部屋の環境整備・感染管理、手術室・病棟からの申し送り、入室時の対処、病棟への申し送り ・モニター装置の監視と取り扱い ・チューブ、ドレーン類の管理 ・術後合併症対策 ・感染予防対策 2. 観察と記録、異常の早期発見と急変時の対処 3. 術後（呼吸器）リハビリテーションの見学 ・患者の心身の苦痛の緩和 ・日常生活行動の援助 ・面会の際の方法と配慮 1. 手術を受ける患者の看護 ・術前オリエンテーション ・術前訓練 2. 受診時の問診（初診時）、検査・診療・処置の介助 ・検体の取り扱い ・化学療法を受ける患者の看護の見学 3. 検査・診察・処置を受ける対象の看護 ・採血をする患者の看護 ・生体機能検査を受ける患者の看護 ・画像診断検査を受ける患者の看護 ・術前検査、内視鏡検査を受ける患者の看護 ・膵臓・胆管の検査・処置を受ける対象の援助 4. 退院後の生活に対する看護 ・退院時診察 ・退院指導、生活指導 ・食事指導 内服指導 ・ストーマ外来の見学 1. 救急救命処置の見学 患者の観察・診察の見学 E R での処置の介助の見学 病棟への入院時申し送り(緊急入院) 2. 消防隊から E R への申し送りの見学 E R で行われる看護技術の見学 緊急の検査を受ける対象の看護
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

授業科目	成人看護学実習 C			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10
目的	終末期にあり対象および家族について理解し、全人的なく苦痛の緩和と QOL を考えた日常生活の援助ができる。				
到達目標	・対象・家族が置かれている状態について身体・精神社会的側面から述べることができる。 ・全身的な苦痛の緩和、QOL を考えた日常生活の援助と、家族の支援ができる。 ・体験を通し、人間の尊重を重んじる態度を身につける ・医療福祉部門との連携と看護師の役割について考えることができる。 ・専門職業人を目指すものとして自覚ある行動がとれる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 対象の一日の流れ、病棟の看護活動を知る。 2. 対象・家族がおかれている状態について身体・精神・社会的側面から述べるができる。 3. 全身的な苦痛の緩和、QOL を考えた日常生活の援助と家族の支援ができる。 4. 死を迎える人の心理過程について考えることができる 5. 死が近づいた対象とその家族に対して敬虔な態度で接することができる 6. 病棟看護チームや多職種と情報を共有しながら同じ方向性で看護が実践できる 7. 自己の看護の振り返りができる 8. 自己の看護観・死生観を明確にする	1. オリエンテーション 2. 受け持ち対象の情報収集 3. 情報の分析（アセスメント） 4. カンファレンス（看護の方向性） 5. 対象に必要な援助の見学・実施 ・病棟の計画に基づいて受け持ち対象の日常生活の援助を看護師とともに行う。 ・対象のフィジカルアセスメント ・環境整備 ・食事・清潔・排泄の援助 ・移乗・移動の援助・活動と休息の援助 ・対象に行われている治療・処置の見学 1. 対象・家族を尊重しQOLを考慮した看護計画を立案する 2. カンファレンス（看護計画発表） 3. 苦痛の緩和のケア日常生活援助のケアの実施 1) 症状の緩和のケア 2) 精神的ケア 3) 日常生活援助 環境調整 4. カンファレンス 4. 異常の早期発見 5. 死亡に立ち会った時は、指導者とともに死後の処置を実施 ・臨終・死亡時の看護について勉強会 6. 医師との情報交換や治療方針の確認をする。 7. ケースカンファレンスに参加 - 対象のケアの方向性について確認 8. 対象・家族がどこでどのような最期を迎えたいか情報を共有し、必要であれば、退院調整ナース・ソーシャルワーカー等との連携調整を見学する。 1. 「人間の尊厳」「死生観」についてグループワーク。 2. 実習反省会で、終末期の患者・家族の特徴、看護の特性について学んだことを振り返る ・自己の看護の振り返りと今後の課題を明確にする 3. 「私の死生観」レポート作成
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------

授業科目	老年看護学実習 A			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	椎葉 さより 他	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
目的	加齢や健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、高齢者がその人らしく地域で生活していくことを支えるための看護を学ぶ。				
到達目標	・加齢変化と健康障害が身体的・精神的・社会的な健康に及ぼしてる影響を理解し今後の健康上の成り行きを予測することができる。 ・対象の健康上の課題をアセスメントし課題を軽減するための看護計画を個別性を踏まえて立案できる。 ・対象の残存機能を最大限に生かし、セルフケア確立に向けて援助ができる。 ・対象者をとりまく保健医療福祉の連携とそこでの看護師の担う役割を理解できる。 ・学習者、看護者としての倫理的態度で実習に臨むことができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 加齢変化と健康障害が身体的・精神的・社会的な健康に及ぼしてる影響を理解し今後の健康上の成り行きを予測することができる。 2. 対象の健康上の課題をアセスメントし課題を軽減するための看護計画を個別性を踏まえて立案できる。 3. 対象の残存機能を最大限に生かし、セルフケア確立に向けて援助ができる。 4. 対象者をとりまく保健医療福祉の連携とそこでの看護師の担う役割を理解できる。 5. 学習者、看護者としての倫理的態度で実習に臨むことができる。	1) 対象者の健康障害と加齢変化を述べることができる。 2) 対象の疾患、検査、治療、処置が生活にどのように影響しているか理解できる。 3) 症状の悪化および転倒・転落事故防止、合併症の予防のための援助ができる。 4) 対象の残存機能機能を生かし日常生活のセルフケア確立に向けた計画立案、実施、評価ができる。 5) 退院後の生活変化への適応がスムーズに行えるように生活指導ができる。 6) 退院後の生活に必要な社会福祉サービスについて説明できる。
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------

授業科目	老年看護学実習 B			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	椎葉 さより 他	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	6
目的	高齢者と家族の支援に関わる保健医療福祉チームメンバーの役割を理解し、健康障害をもっている高齢者の生活を重視した援助ができる。				
到達目標	・ 高齢者施設を利用する対象者の特徴について理解できる。 ・ 高齢者施設を利用する対象者の日常生活の自立に向けた援助の必要性を理解し実施することができる。 ・ 高齢者施設を利用する対象者および家族に必要な社会福祉サービスについて理解できる。 ・ 高齢者施設の役割と機能を理解し・看護職と多職種との連携・協働について述べることができる。 ・ 高齢者の尊厳に配慮し敬意をもった関わり方ができる。 ・ 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 者施設の概要、構成員、多職種の役割制度等について理解できる。 2. 高齢者施設を利用（入所）されている対象者を受け持ち看護過程を展開する。 3. 高齢者施設における看護職・多職種との連携を理解し看護師の役割について理解できる。 4. 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる。	1) 特別養護老人ホームでは1ユニット受け持ち対象者1名を受けもち、必要な援助を実施する。 2) 介護老人保健施設に入所している対象者を受けもち、看護過程の展開をする。 3) デイサービスを利用している対象者について見学する。 ・ 身体的・社会的・精神的特徴を述べることができる。 ・ 自宅で介護できない家族の特徴を述べることができる。 ・ 在宅に向け家族への支援方法を述べることができる。 4) 対象者の生活歴や信条を反映した援助計画を立案する。 5) 施設における多職種の連携を述べることができる。 6) 施設における看護師の役割を述べることができる。 7) 老年期の人々の生活を支えるための社会資源の活用について述べることができる。
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

授業科目	小児看護学実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	日高 里美	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	15
目的	子どもと家族を理解し、子どもの成長発達および健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得する。				
到達目標	<保育園実習> 1. 健康な小児の個別の成長・発達について、身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。 2. 健康な小児の成長・発達に応じた援助が実践できる。 3. 保育園における健康教育と事故防止の実際を理解できる。 <病棟実習> 1. 健康障害のある小児の特徴を理解できる。 2. 患児と家族の健康障害に応じた看護について理解できる。 3. 保健医療福祉チームの連携と活用する社会資源を理解できる。 4. 小児とその家族との関わりを通して、小児看護観を深めることができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 健康な乳幼児の発達段階および日常生活行動について理解する。	<保育園実習> 1. 保育園の概要を知る 2. 乳幼児に適した環境について観察する 3. 各年齢の違うクラスに入り、子ども身体的発育・運動機能・情緒・社会性・言語の発達の特徴を観察する 4. 0歳児～4・5歳児の各クラスに入り、食事・排泄・遊び・更衣等発達段階に応じた生活の援助を行う 5. 保育士と園児のコミュニケーション場面から、発達段階に応じた接し方を理解する - 子どもとの関わりの中で言語的・非言語的コミュニケーションの工夫を行う 6. 健康な子ども観を意見交換しまとめる 7. 病後児保育の実際について保育士から説明を受ける <小児病棟実習> 1. 病棟の概要を知る ・ 一般病棟との違いとその意味 ・ 感染予防・事故防止対策 2. 「看護師と母親とのコミュニケーションモデル」を理解する 3. 看護師と一緒に病室の環境整備を行い、健康状態や環境が子どもに及ぼす影響について理解する 4. 看護師と一緒に清潔、食事、排泄、更衣、遊びや学習の介助やバイタルサイン測定等を行う
	1. 小児看護の対象を理解し、患児と家族の健康障害に応じた看護の実際を理解する。 2. 子どもと看護師の関わりを観察し、子どもとのコミュニケーションをとる。 3. 看護師と一緒に、環境や対象の反応をとらえ安全・安楽に小児看護技術や日常生活援助を経験する。 4. 成長・発達の視点から受け持ち対象の情報を意図的に収集する。 入院や疾病が及ぼす影響を解釈し、子どもと家族のニーズを見つけ出す。	

	成長・発達を促すための看護を毎日の記録を活用して展開する。 5. 小児外来における看護の役割と継続看護の実際について理解する。 6. NICU 入院中の看護、家族への看護について理解する。	・電子カルテ・医師・看護師・母親・本人から情報収集 ・基本的生活習慣の獲得状況 ・看護師と一緒に病状や発達段階を考慮した日常生活援助の実際を行う ・観察した事実やデータをもとに毎日の記録の中で看護の評価 5.小児外来見学 ・1 か月健診 ・NICU フォローアップ外来 6. NICU 見学 ・NICU の環境 ・対象の特徴及び治療・看護の実際
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

授業科目	母性看護学実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単位数	2
担当講師	前山 彩	取得資格	助産師・保健師・看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	13
目的	周産期にあたる母性の特徴と新生児の特徴を理解し、母子や父親、家族に対して必要に応じた適切な看護ができるための基礎的能力を養う。				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の特徴を理解し、妊産褥婦を総合的にとらえることができる。 2. 妊産褥婦の正常経過を理解し、各期の状態に応じた看護ができる。 3. 新生児の特徴を理解し、母体外生活への適応の援助を行うことができる。 4. 健康な母子（親子）関係を理解する。 5. 母性看護における継続看護の関係について理解する。 6. 妊産褥婦および新生児とその家族に対して、立場に応じた誠実な対応をとることができる				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 妊娠・分娩・産褥各期の特徴を理解し、妊産褥婦を総合的に捉えることができる。 2. 妊産褥婦の正常経過を理解し、各期の状態に応じた看護ができる。 3. 新生児の生理的特徴と経日的変化を観察し、必要な看護を行うことができる。	1) 妊娠期の特徴を理解し身体的・精神的・社会的側面から捉える 2) 産婦の特性について分娩期の身体的変化と心理的変化中心に理解を深める。 3) 産褥期の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面から捉える。 入院している妊婦の看護 1) 妊婦がより健康に妊娠期を経過できる援助を実施する。 産婦の看護（分娩第1期～分娩第4期） 2) 産婦がより安全・安楽で満足な分娩ができる援助を実施する。 褥婦を受け持ち妊娠・分娩経過をふまえた褥婦の看護を行う。 3) 褥婦の健康回復と母親として役割が獲得できる援助ができる。 受け持ちの児を通して、子宮外生活適応状態に応じた看護を行う。 1) 新生児が子宮外生活に適応できるよう援助できる。 2) 健康な母子（親子）関係を理解する。
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------

授業科目	精神看護学実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	19
目的	精神に障害のある対象およびその家族を総合的に理解し、対象が社会生活に適応するために必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。				
到達目標	・精神に障害のある対象の行動・思考・対人関係の特徴を理解することができる。 ・精神障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、対象に応じた自立のための看護を実践することができる。 ・保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、精神に障害のある対象が社会復帰に向けて必要な社会資源の活用方法がわかる。 ・精神に障害のある対象との関わりや実習をとおして自己理解を深め、専門職業人になるための自覚を持つことができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 精神に障害のある対象の行動・思考・対人関係の特徴を理解する。 2. 治療が対象の心身に及ぼす影響がわかり個別性のある援助ができる。 3. 精神に障害のある対象とのコミュニケーションや援助をとおして、自己理解を深める。 4. 地域生活支援の実際を知り、看護の役割や社会資源について理解する。 5. 精神保健医療を取り巻く社会的・経済的環境が変化する中で精神看護の役割が複雑かつ多様になっていることを理解できる。	精神科病院に入院している対象や社会復帰をしている対象、その家族を通して、精神に障害のある対象が社会に適応できるための援助活動を学ぶ。 （看護過程展開を通して考える） 1) 精神保健福祉法に則った病棟の特徴・構造上の特徴と概況 2) 治療的環境における人権擁護と安全管理、鍵の取り扱い 3) 受持ち対象の精神障害の特性 ・薬物療法が身体面に影響する因子 ・症状が日常生活行動に影響する因子 4) 患者－看護師関係の発展プロセスの理解 ・プロセスレコードを用いて自己の傾向の理解 5) 日常生活の向上や QOL を高めるための援助 6) 多職種連携の実際 6) 家族や周囲の人々と交流が持てるための援助 7) 受け持ち対象の逸脱行動に伴う危険防止への援助 8) 家族への援助 9) 社会復帰を阻害する因子と社会資源の現状
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------

授業科目	総合実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	橋本 恵子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	20
目的	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して、知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。				
到達目標	・看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める ・就寝善の患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解できる。 ・複数患者の看護を、優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 ・既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高めることができる。 ・これまでの学習を振り返り、将来看護師としての自己課題を明確にする。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 病棟管理・看護管理の実際について理解できる 2. 看護管理者（師長）の役割と業務について述べるができる 3. コーディネータとしての役割と業務の実際について整理することができる 4. 受け持ち対象の看護の方向性・必要な看護を明確にできる 5. 看護管理の視点で受け持ち対象の看護計画を立案し、援助を実施できる 6. 夜間の看護体制と看護者の役割について述べることができる 7. 夜間の患者の状態を観察し、必要な援助を実践できる 8. 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性が理解できる 9. 看護管理や医療安全の視点から質の良い看護について考えることができる 10. 将来看護師としての自己の目標や課題を明確にする	1. 看護部門のオリエンテーション 組織としての機能・看護理念・看護体制、病院看護機能評価 2. 病棟の看護体制のオリエンテーション 病棟の看護体制・勤務体制・診療科の特性、入院患者の特性 業務のスケジュール 業務基準 3. 病棟の医療安全・災害対策 感染予防対策 4. 看護師長業務見学 5. リーダー業務見学 6. チームメンバー業務見学 1. 受け持ち対象のアセスメント 2. 受け持ち対象の看護 1. 受け持ち対象の看護計画立案 2. 状況の変化に応じ臨機応変にケア計画の修正・調整 3. 受け持ち対象の援助実施 1. 夜勤の看護師に同行し看護の見学・実施 2. 夜間帯の患者の状況の把握と夜間に必要な援助の実施 1. 多重課題の対処について勉強会 2. 複数患者のケア計画立案 3. 状況に応じたケア計画の追加・修正 ・患者Aの状態・状況の変化における援助実施の良否、優先度の判断 4. チームでの課題解決 複数患者のケア実施 ・適時、適切な人への報告・連絡・調整 ・メンバー間の連絡調整ケア計画の遂行状況の把握 1. 総合実習のまとめ 実習反省会・レポート ・看護者としての倫理てき行動とは ・将来看護師としての自己の目標・課題
評価方法	実習評価表に基づく評価	

備考	実習要項
----	------